東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT

2010年（第60回）学生生活実態調査の結果

2011.12.12

No.1419

目　　次

調査の概要
報告について
第１部　学生生活の評価と将来の選択
1　入学・進学・学業……3
2　就職……11
3　不安・悩み……13
4　大学への要望……16
第２部　学生生活の背景
1　家庭の状況……17
2　生活費の状況……21
3　通学・住居……25
4　奨学金……27
5　アルバイト……29
特殊分析の試み……31
総合分析の試み……34
資料１（調査票及び単純集計結果）……39

調査の概要

1. 調査票の作成

2010年（平成22年）５月から10月にかけて、学生委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2. 調査の期間

2010年（平成22年）11月下旬～12月下旬。

3. 調査の対象及び抽出率

学部男子・女子学生。学部・科類別無作為抽出法で、在籍者数の１／４を抽出。

4. 調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する（自記式）方法。

5. 調査の内容

Ⅰ．基本的事項、Ⅱ．入学･進学･学業、Ⅲ．就職、Ⅳ．不安･悩み、Ⅴ．大学への要望、Ⅵ．家庭の状況、Ⅶ．生活費の状況、Ⅷ．通学・住居、Ⅸ．奨学金、Ⅹ．アルバイト、XI．具体的記述

報告について

1. 今回は、2008年（第58回）と同様に、学部男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。
集計結果の分析に当たっては、学部学科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。
2. 学内広報掲載の報告については、クロス集計表を省略した。クロス集計表については、ホームページ掲載の報告を参照されたい。
3. 平成21年度までは、２分の１程度の具体的記述を原文のまま報告書に記載していたが、読む人によって個人が特定できる可能性があること、さらに、報告書掲載の基準が恣意的になりやすいこともあり、昨年度より具体的記述は報告書に掲載しないこととした。ただ、このことは具体的記述を無視するとか軽視することを意味しているわけではなく、それぞれの具体的記述は学生生活調査室で検討するとともに、担当理事によっても検討され、大学の施策の改善に役立てられている。
4. 複数回答の百分率（パーセント）は、非該当を除く総回答数に対するもので、合計が100パーセントとなる。また、本文中の「ポイント」とは、総数の百分率（パーセンテージ・ポイント）を表す。
5. 今回の単純集計表及びクロス集計表は、大学総合教育研究センターの作成による。

グラフと表について

1. 今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1973年調査までさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表１」に1973年以降の調査の実施状況を表示した。
2. 文中に掲げたグラフと表については、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「非該当」を除いた比率で作成している。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100％に満たないものと100％を超えるものがある。
3. 複数回答の設問については、非該当を除く総回答数に対するもので、合計が100パーセントとなる。
4. 平均値の算出は、無回答のものを除く該当者平均を求めた。
5. 作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。

「全体」‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥回答者全員の比率を示す。

「文科系」「理科系」‥‥‥‥在籍する学部により二つの系に区分したものを示す。

表１　学生生活実態調査実施状況一覧表

回　数	調査年月	対象学生	抽　出　率	対象者数	回収率	調査方法
				人	%	
第23回	1973年12月	学部男子・女子	男子　1／15 女子　1／2	794 340	76.2 75.0	郵送自記式
第24回	1974年11月	学　部　男　子	1／5～1／15	1,004	67.8	〃
第25回	1975年11月	学　部　男　子	1／5～1／15	1,041	75.3	〃
第26回	1976年11月	学　部　男　子	1／5～1／15	1,063	75.5	〃
第27回	1977年11月	学　部　女　子	全　　数	811	75.8	〃
第28回	1978年12月	大学院学生	男子　1／4 女子　全　数	862 315	66.1 66.3	〃
第29回	1979年11月	学　部　男　子	1／5～1／15	1,069	78.6	〃
第30回	1980年11月	学　部　男　子	1／5～1／15	1,064	73.8	〃
第31回	1981年11月	学　部　男　子	1／5～1／15	1,031	74.2	〃
第32回	1982年11月	学　部　女　子	全　　数	910	77.6	〃
第33回	1983年11月	学　部　男　子	1／5～1／15	1,008	75.0	〃
第34回	1984年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,380	76.1	〃
第35回	1985年11月	大学院学生	男子1／2～1／4 女子　1／2 OM・OD　1／2	968 165 249	69.8 67.9 51.4	〃
第36回	1986年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,385	72.6	〃
第37回	1987年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,432	73.9	〃
第38回	1988年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,459	70.9	〃
第39回	1989年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,480	78.5	〃
第40回	1990年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,504	63.1	〃
第41回	1991年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,530	62.2	〃
第42回	1992年11月	大学院学生	男子1／2～1／6 女子　1／2	1,496	59.8	〃
第43回	1993年11月	学部男子・女子	男・女　1／10	1,593	64.8	〃
第44回	1994年11月	学部男子・女子	男・女　1／8	2,005	60.6	〃
第45回	1995年11月	学部男子・女子	男・女　1／8	2,011	64.0	〃
第46回	1996年11月	学部男子・女子	男・女　1／8	2,004	60.9	〃
第47回	1997年11月	学部男子・女子	男・女　1／8	1,990	60.2	〃
第48回	1998年11月	学部男子・女子	男・女　1／8	1,964	60.3	〃
第49回	1999年11月	大学院学生	男・女　1／4 OM・OD　1／4	2,099	49.5	〃
第50回	2000年11月	学部男子・女子	男・女　1／8	1,917	54.4	〃
第51回	2001年11月	学部男子・女子	男・女　1／8	1,900	49.6	〃
第52回	2002年11月	学部男子・女子	男・女　1／4	3,749	37.2	〃
第53回	2003年11月	学部男子・女子	男・女　1／4	3,700	40.6	〃
第54回	2004年11月	大学院学生	男・女　1／4	2,539	40.6	〃
第55回	2005年11月	学部男子・女子	男・女　1／4	3,534	38.7	〃
第56回	2006年11月	学部男子・女子	男・女　1／4	3,455	32.8	〃
第57回	2007年11月	学部男子・女子	男・女　1／4	3,406	43.0	〃
第58回	2008年11月	学部男子・女子	男・女　1／4	3,506	45.2	〃
第59回	2009年11月	大学院学生	男・女　1／4	2,675	49.9	〃
第60回	2010年11月	学部男子・女子	男・女　1／4	3,419	42.6	〃

（注）「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。1992年調査は「外国人留学生」を含む。

表２　2010年（第60回）学生生活実態調査回収状況一覧

男女別 / 学部	男子			女子			全体		
	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率	対象者数	回収数	回収率
	人	人	%	人	人	%	人	人	%
教養学部（前期）	1,315	564	42.9	294	146	49.7	1,609	710	44.1
文科　小計	501	201	40.1	165	75	45.5	666	276	41.4
文科一類	189	73	38.6	44	14	31.8	233	87	37.3
文科二類	156	67	42.9	28	11	39.3	184	78	42.4
文科三類	156	61	39.1	93	50	53.8	249	111	44.6
理科　小計	814	363	44.6	129	71	55.0	943	434	46.0
理科一類	553	245	44.3	48	30	62.5	601	275	45.8
理科二類	219	96	43.8	73	37	50.7	292	133	45.5
理科三類	42	22	52.4	8	4	50.0	50	26	52.0
法学部	202	90	44.6	52	25	48.1	254	115	45.3
経済学部	163	64	39.3	27	16	59.3	190	80	42.1
文学部	147	44	29.9	66	33	50.0	213	77	36.2
教育学部	34	13	38.2	23	13	56.5	57	26	45.6
理学部	146	55	37.7	16	8	50.0	162	63	38.9
工学部	474	168	35.4	43	23	53.5	517	191	36.9
農学部	121	50	41.3	40	26	65.0	161	76	47.2
薬学部	32	19	59.4	12	6	50.0	44	25	56.8
医学部	91	49	53.8	21	8	38.1	112	57	50.9
教養学部（後期）	66	17	25.8	34	18	52.9	100	35	35.0
合計	2,791	1,133	40.6	628	322	51.3	3,419	1,455	42.6
2008年（第58回）調査	2,826	1,210	42.8	680	375	55.1	3,506	1,585	45.2

第１部　学生生活の評価と将来の選択

１－１．入学・進学・学業

１－１－１．入学について

入学の希望は「東大にどうしても入りたかった」58.2%
入学の動機は「社会的評価が高いから」19.4%
入学時に進学希望学部を決めていたのは56.7%

「東大を受験する際に東大に入学することをどの程度希望していましたか」への回答結果は、「浪人しても東大に入りたいと思っていた」が58.2%、「東大がだめなら他大学でもよいと思っていた」が40.4%、「他大学がだめなら東大でもよいと思っていた」が1.3%であった。時系列での変化をみると、前回までの選択肢は「どうしても入りたかった」で、今回と若干異なることに留意する必要があるが、東大への強い入学希望をもっている学生の割合は2005年（第55回）を境に大きく上昇し（2003年48.6%→2005年59.0%）、その後も常に６割近くを維持している。今回の調査では、前回とほぼ同じような傾向であると言える（図１）。

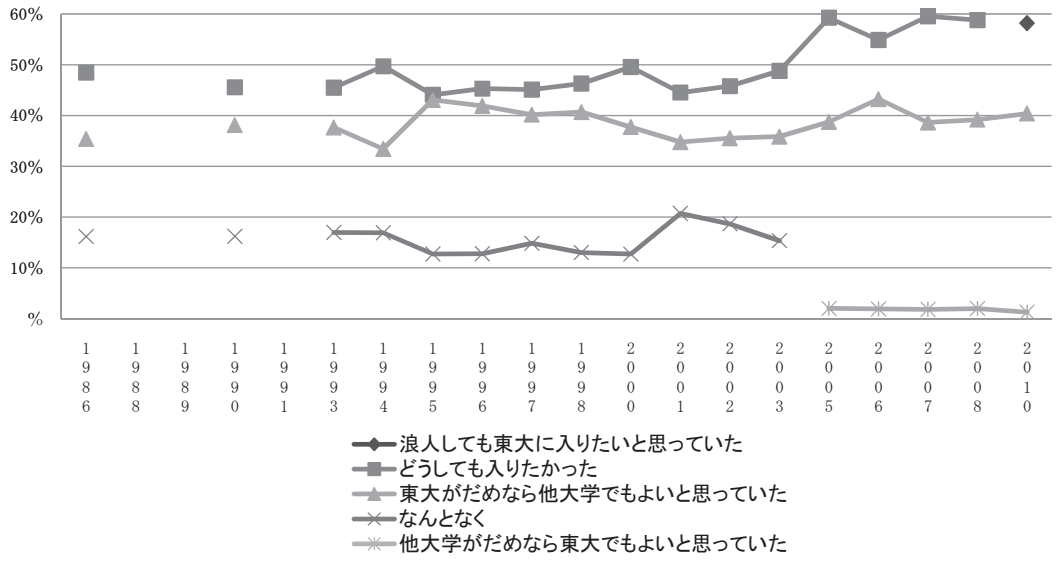


図１　東大に入学することをどの程度希望していましたか

「東大入学の動機は、どれにあたりますか」への回答では、「社会的評価が高いから」が19.4%、「入学後に学部の選択が可能だから」が16.2%、「私大に比べて授業料が安いから」が13.8%で上位３つを占めており、前回と同順であった（図２－１）。

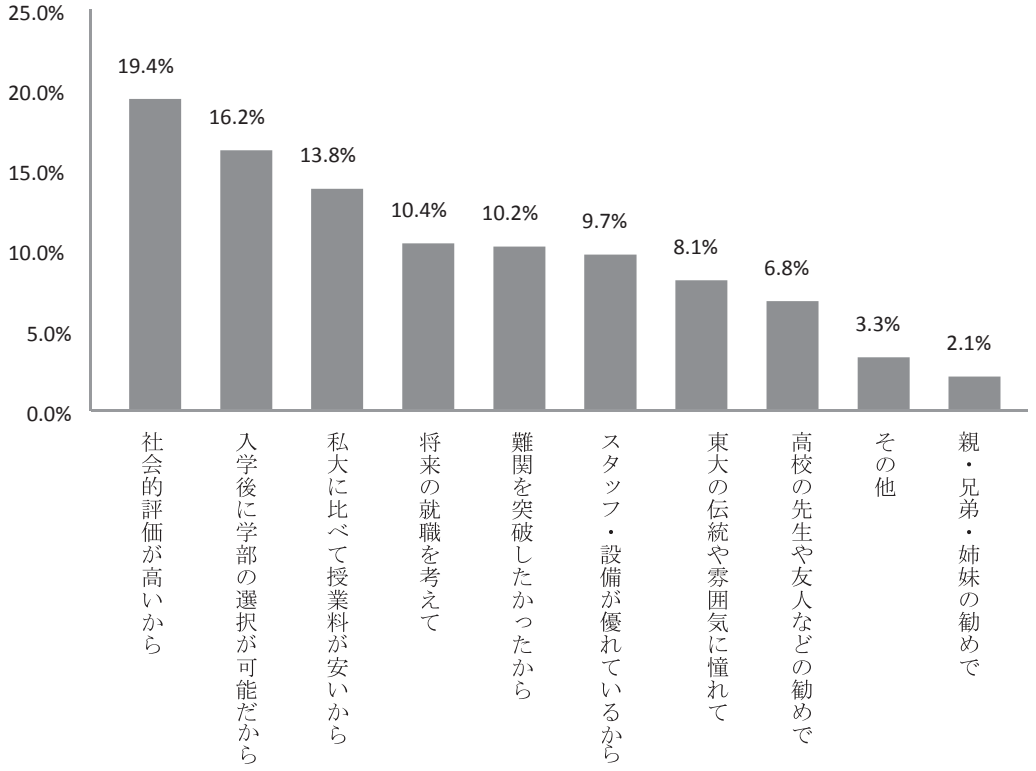


図２－１　東大入学の動機は、どれにあたりますか（３つまで選択）

「入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか」への回答では、「学部のみ決めていた」が32.5％、「学科等まで決めていた」が24.2％、「学部、学科は決めていなかった」が43.3％であった。時系列での変化をみてみると、学部あるいは学科等を決めている学生が減り、決めていない学生が増えている傾向がみられる。2006年（第56回）以降、決めずに入学する学生は４割を超え、年々微増している。（図２－２）

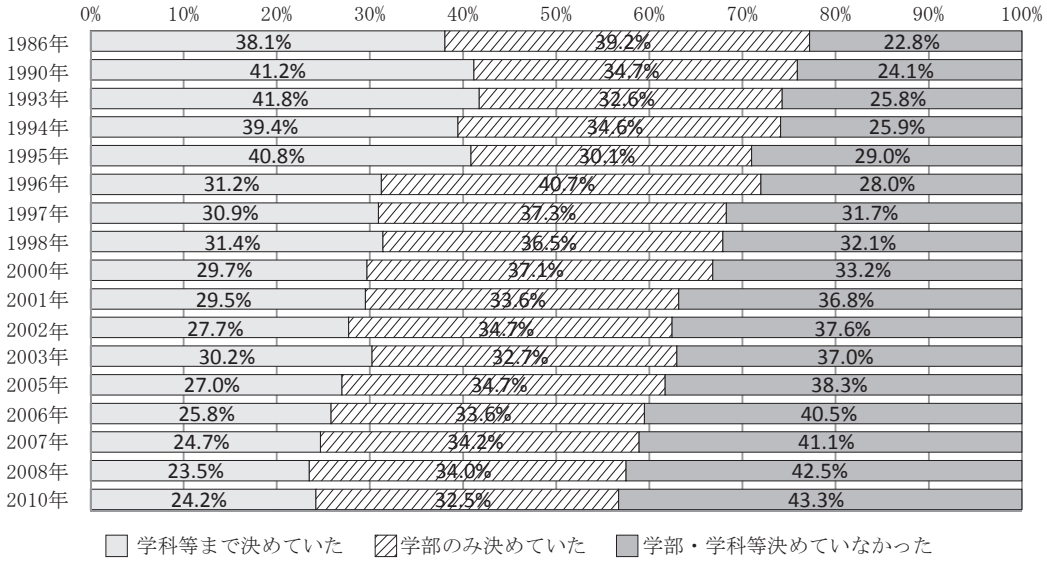


図２－２　入学時に進学する学部・学科等を決めていましたか

１－１－２．進学について

「希望通り・ほぼ希望通り」進学決定（内定）したのは94.4％
在籍学部・学科等に「満足・まあ満足」している学生は76.7％
進学振分け制度「現行のままでよい」は39.9％

進学内定者及び後期課程学生のみが回答する「進学の決定（内定）は希望通りでしたか」の回答では、「希望通り決定（内定）した」が79.5％、「ほぼ希望通り決定（内定）した」が14.9％、「希望通りでなかった」が5.6％で、ほとんどの人が希望通りに進学が決まっている。時系列でも、近年大きな変動はみられていない（図３）。

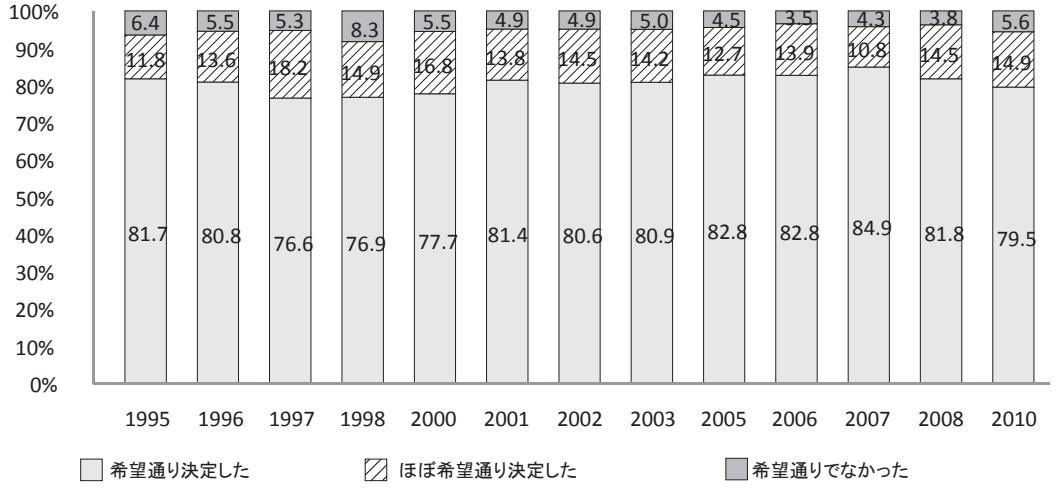


図３　進学の決定（内定）は希望通りでしたか（進学内定者、後期課程学生のみ）

「現在在籍している学部･学科等（科類）に満足していますか」では､｢満足している」が34.1％､｢まあ満足している」が42.6％､｢どちらとも言えない」が12.2％､｢やや不満である」が6.9％､｢不満である」4.2％であった。時系列でみると、前回（2008年・第58回）以降、「満足している」が1.9ポイント減少し、かわって「まあ満足している」が1.1ポイント程度増加しており、前回とほぼ同様の結果であった。全体としては、７割以上の者が満足している様子がうかがえる（図４）。

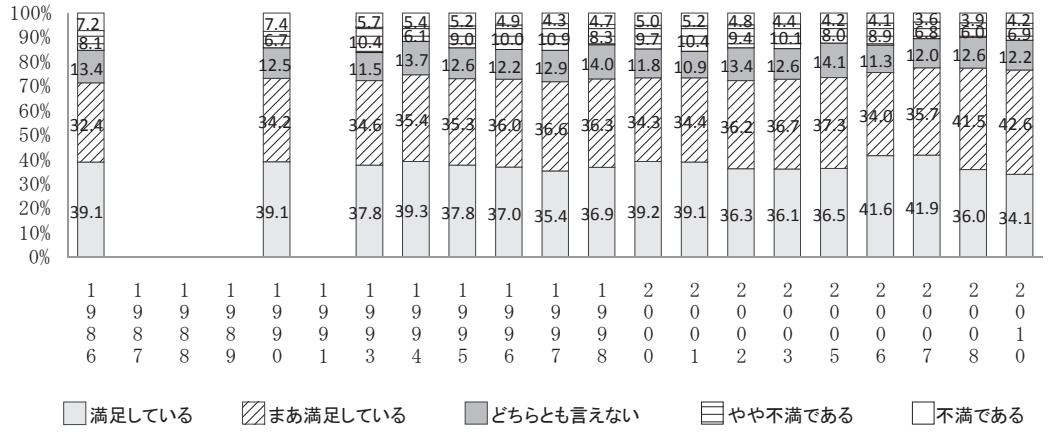


図４　現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか

「進学振分け制度についてどのように考えていますか」では、「現行のままでよい」が39.9％、「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」が21.8％、「入学時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」が14.3％、「特に考えていることはない」が24.0％で、前回と比べると「入学時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」が5.7ポイントほど高くなっている。しかし、全体としては「現行のままでよい」が増える傾向にある。学部別では、学部による差異がみられ、教育学部50.0％、教養学部（理科系）62.5％、農学部53.9％、薬学部79.2％で、「現行のままでよい」がやや高い（図５）。

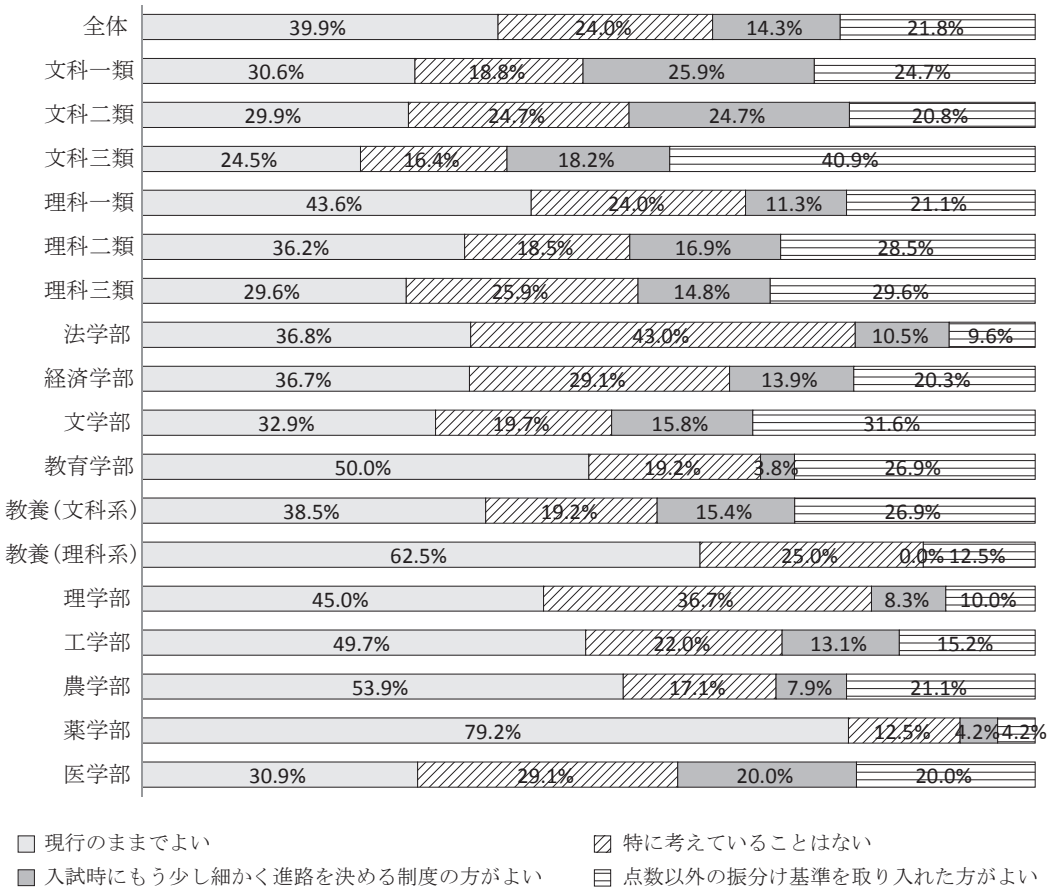


図５　進学振分けについてどのように考えていますか［学部別］

１－１－３．カリキュラムについて

カリキュラムに「満足・まあ満足している」は56.7％
カリキュラムの消化が「できる・まあできる」は78.8％

「現在のカリキュラムに満足していますか」では、「満足している」11.6％、「まあ満足している」45.1％となっており、満足している者は56.7％と半数をこえている。時系列でみると、2005年の第55回以降、過半数の者がカリキュラムに満足している結果となっている（図６－１）。学部別では、学部による満足度の違いがみられ、教育学部80.8％、工学部71.2％、理学部70.5％では、７割以上が満足している（図６－２）。

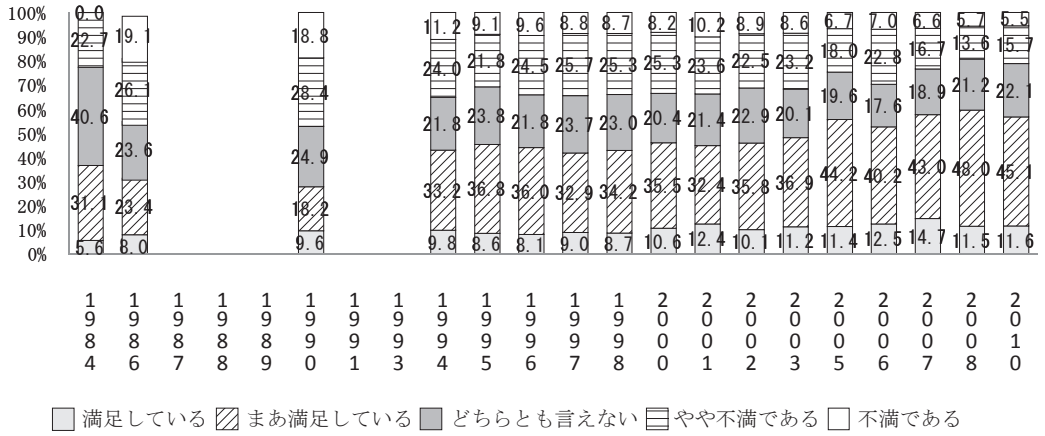


図６－１　現在のカリキュラムに満足していますか［時系列］

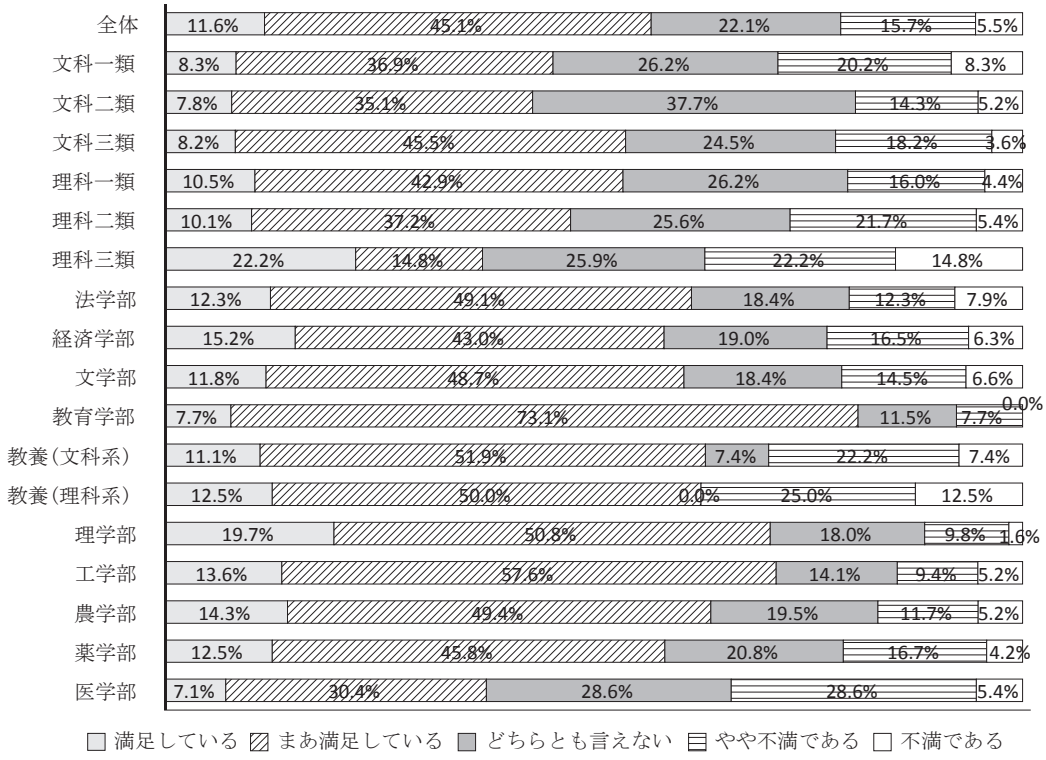


図６－２　現在のカリキュラムに満足していますか［学部別］

「現在のカリキュラムを消化できますか」への回答では、「できる」が31.9%、「まあできる」が46.9%で消化できると答えた者は78.8%であった。時系列でみると、前回（2008年・第58回）とほぼ同様の結果となっているが、前々回（2007年・第57回）以前と比較すると、「できる」が10ポイント程度減少し、「まあできる」が10ポイント弱増加する傾向が続いている。自信をもってカリキュラムを消化できている、と答えられる学生がやや少なくなっている（図７－１）。学部別では、学部によってカリキュラム消化に違いがみられる（図７－２）。

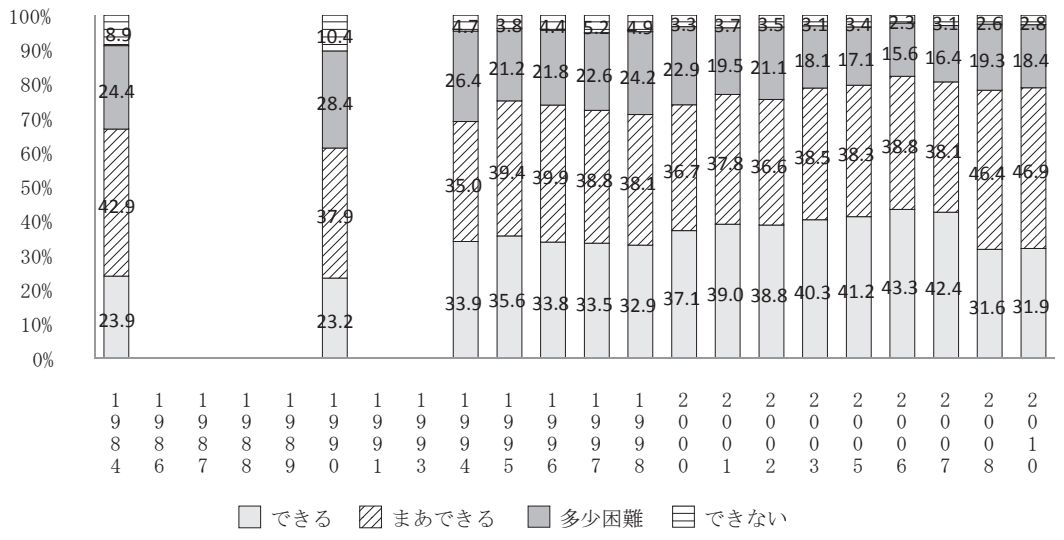


図７－１　現在のカリキュラムは消化できますか［時系列］

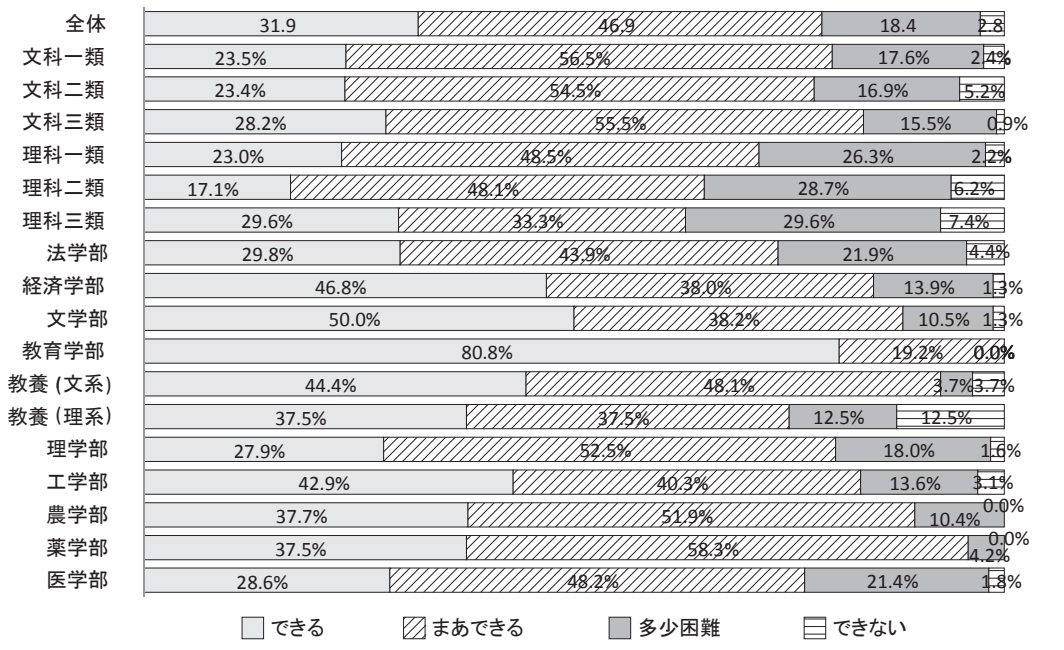


図７－２　現在のカリキュラムは消化できますか［学部別］

１－１－４．キャンパスにいる時間

夜９時以降にキャンパスにいることがある学生は、62.0％
「土曜・日曜・祝日にキャンパス内にいる」者の割合は、76.7％

今回の調査では、初めて学生がキャンパスにいつまで、どの程度いるのかたずねた。その結果は、「夜９時過ぎまでキャンパスにいることはない」は38.0％と約４割だが、「夜９時くらいまでならキャンパスにいることはある」が24.7％と４分の１、「夜10時くらいまでならキャンパスにいることはある」が19.5％、「夜11時くらいまでならキャンパスにいることはある」が7.0％、「深夜12時過ぎまでキャンパスにいることがある」が10.8％となっている。なお、文科系より理科系の方がキャンパスにいる者の割合が高く、特に「夜11時くらいまでならキャンパスにいることはある」は文科系4.9％に対して、理科系は8.6％、「深夜12時過ぎまでキャンパスにいることがある」は、文科系3.4％に対して、理科系16.1％とかなりの学生が夜遅くまでキャンパスに残っている。

さらに、キャンパスに残っている者に、その頻度をたずねると、「半年で１、２回」が12.1％、「月に１、２回くらい」が26.1％、「週に１、２回くらい」が33.1％で、合わせて78.3％と４分の３以上が週に１、２回程度だが、「週に３、４回くらい」は21.2％、「ほぼ毎日」が7.4％となっており、かなりキャンパスにいる時間が長い学生がいるとみられる。また、文科系理科系別でも、理科系の方が文科系に比べてキャンパスにいる時間が長くなっている。

また、「土曜・日曜・祝日にキャンパス内にいる」者の割合は、76.7％と４分の３を超えている。ただし、文科系理科系別では、有意な差はない。

本郷キャンパス正門

１－１－５．学部卒業後の進路予定について

文科系は就職希望者が54.8%、理科系では大学院進学希望者が68.9%
大学院進学希望者では、文科系では専門職学位課程を希望する者が約３分の１
主な大学院進学の理由第１位は、「より高度の知識・技術を身に付けるため」で43.6%

「学部卒業後、どのような進路を予定していますか」では、「大学院に進学する（修士42.6%、博士4.7%、専門職4.3%）」が51.6%、「学士入学をする」が0.6%、「就職する」が31.4%、「まだ決めていない」が14.5%であった。男女別でみると、男子は「大学院に進学する」（男子54.7%、女子40.9%）が女子よりも13.8ポイント程度高く、女子は「就職する」（男子28.6%、女子41.0%）が男子よりも12.4ポイントほど高い。文科系・理科系別でみると、理科系は「大学院に進学する」（理科系68.9%、文科系27.1）が７割近くを占め、文科系は「就職する」（文科系54.8%、理科系15.1%）が理科系の３倍以上であることから、文科系・理科系で卒業後の進路予定に大きな違いがあることがみてとれる（図８）。

「大学院に進学する」と答えた人に「その理由」を聞いてみたところ、「より高度の知識・技術を身に付けるため」が43.6%と、他の項目と比べて圧倒的に高く、次いで「良い就職先を得るため」が13.5%、「大学で教育・研究職に就くため」が10.4%、「必要な資格を得るため」が8.5%という結果となった。男女別では、全体的に大きな差異はみられなかったが、「必要な資格を得るため」（男子7.9%、女子11.4%）で女子が3.5ポイント高く、「大学で教育・研究職に就くため」（男子10.9%、女子8.5%）で男子が2.4ポイント高いという違いがみられた（クロス集計表１－17表）。

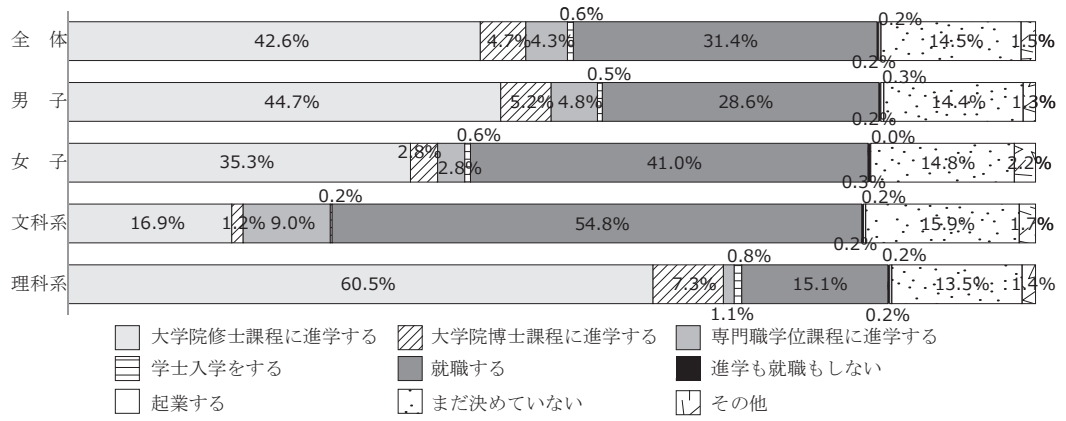


図８　学部の卒業後、どのような進路を予定していますか

１－２．就職

希望職種は「企業等の研究職」18.2%、「大学・公的機関の教育・研究職」17.4%
希望職種に就きたい理由は「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」25.8%

「どのような職業に就きたいと思いますか」についての回答をみると、全体では、「企業等の研究職の割合」が18.2%、「大学・公的機関の教育・研究職」が17.4%と高く、「技術職」と「専門職（医師、法曹、公認会計士等）」が13.3%と続いている。前回の調査（第58回・2008年）では「行政職（公務員）」が３番目に高い割合であったが、今回の調査では8.5%で６番目となっており、「技術職」と入れ替わる結果となった（図９）。

男女別では、いくつかの項目で男女に差がみられた。「企業等の研究職」（男子19.2%、女子14.8%）、「大学・公的機関の教育・研究職」（男子18.4%、女子13.9%）、「技術職」（男子14.6%、女子8.5%）の項目において、男子が女子と比べて５ポイント前後高く、「事務職」（男子7.3%、女子15.1%）では女子の高さが目立っている。（クロス集計表２－１－２表）

文科系・理科系別をみると、全体的に文科系と理科系の間で大きな違いがある。特に顕著な差がみられるものとしては「企業等の研究職」（理科系27.5%、文科系3.5%）、「大学・公的機関の教育・研究職」（理科系21.9%、文科系10.2%）、「技術職」（理科系21.0%、文科系1.2%）で、理科系が大幅に高い。他方、「専門職」（文科系19.2%、理科系9.6%）、「事務職」（文科系17.7%、理科系3.5%）、「行政職」（文科系14.8%、理科系4.5%）、「管理職」（文科系13.3%、理科系5.0%）においては、文科系が10ポイント程度高くなっている。

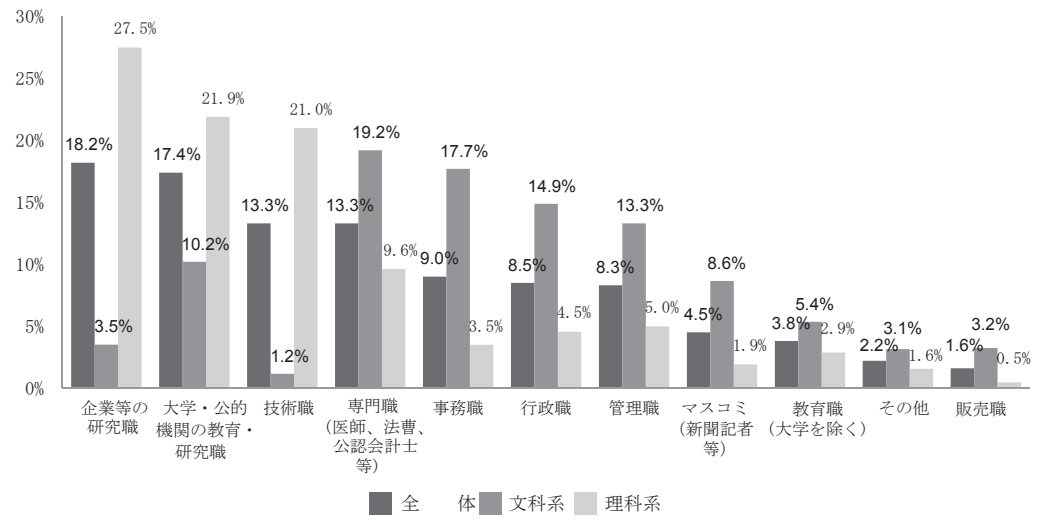


図９ 就職希望職種［全体・文科系・理科系］（３つまで選択）

「その職業に就きたいと考えるのは、どのような理由からですか」についての回答をみると、全体では「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」が25.8%、「人を助けたり社会に奉仕できる」が18.9%、続いて「安定した生活が保障されている」12.8%、「十分な収入が期待できる」12.7%となっており、上位４項目は前回の調査（第58回・2008年）と同順であった（図10、クロス集計表２－２表）。

男女別では、全体的に大きな男女の差はみられず、「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」（男子26.1%、女子24.5%）、「人を助けたり社会に奉仕できる」（男子18.2%、女子21.4%）、「安定した生活が保障されている」（男子

12.2%、女子14.9%)、「十分な収入が期待できる」(男子13.3%、女子10.9%)という全体での上位４項目は、男女ともに高い傾向を示している。「国際的な仕事ができる」(男子4.7%、女子9.4%)のみ、女子が５ポイント近く高くなっている(クロス集計表２－２表)。

文科系・理科系別にみると、「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」(理科系32.1%、文科系17.3%)を希望理由に挙げる理科系の高さが際だっている。また、「独創性や創造性を発揮できる」(理科系10.2%、文科系6.0%)においても理科系が高い。他方、文科系が高めの項目としては、「人を助けたり社会に奉仕できる」(文科系20.9%、理科系17.4%)、「国際的な仕事ができる」(文科系7.9%、理科系4.1%)「人や組織を動かすことができる」(文科系6.9%、理科系3.2%)が挙げられ、いずれも約４ポイント程度の差がみられる。それ以外の項目では大きな差は見られない(図10)。

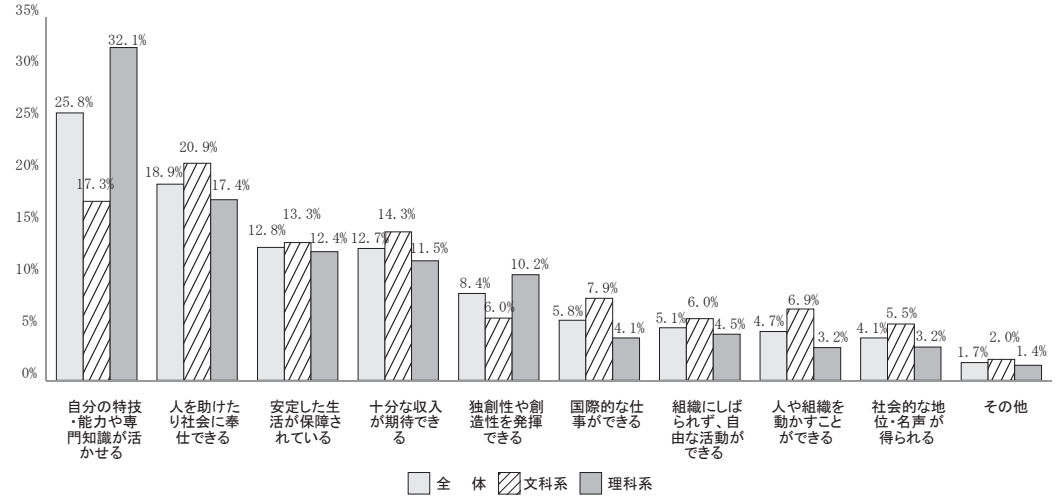


図10　就職希望職種の理由(３つまで選択)

１－３．不安・悩み

「将来の進路や生き方」に82.8％の学生が悩みを感じている
相談する相手は、父母、学内のサークルや団体の友人、大学内の同じ学科や研究室の友人、大学外の友人
「経済的支援の強化」を求める学生が67.3％に達した

学生が不安や悩みとして最も多くあげた項目は「将来の進路や生き方」で「よく悩む」と「ときに悩む」をあわせて82.8％にのぼる。これに次いで多いのは、「就職」（同71.5％）、「勉学（成績・単位など）」（同68.4％）、「経済的なことや経済的自立」（同63.9％）などとなっている。これらは前回とほぼ同じ傾向である。逆に、あまり不安や悩みがないのは「教職員との対人関係」（同10.3％）、「自分の体調や健康」（同34.5％）などとなっている（図11）。

多くの項目で女子の方が男子より悩む割合が高い。とくに「勉学（成績･単位など）」で男子が「よく悩む」と「ときに悩む」を合わせて67.1％に対して、女子は73.9％、「就職」は男子69.9％、女子76.8％、「将来の進路や生き方」では男子81.6％、女子88.2％、「性・異性・恋愛・結婚」では男子54.3％、女子60.6％、「自分の性格」では男子52.2％、女子62.9％、「自分の体調や健康」では、男子32.3％、女子42.7％、「人生の意義・目標」では男子60.1％、女子67.4％となっている。これに対して、「経済的なことや経済的自立」などは男子と女子で差が見られない（クロス集計表３－１－１～11表）。

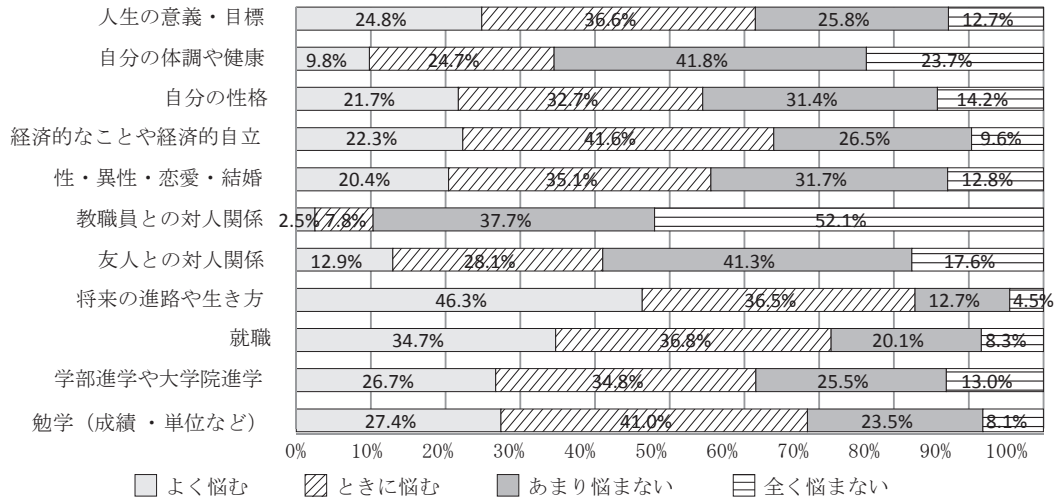


図11　不安・悩みの程度

そうした不安や悩みの相談相手として最も多くの学生があげたのは、「父・母」で「よく相談する」と「ときどき相談する」をあわせると43.1％となっている。次いで、「大学内のサークルや団体の友人」（同38.8％）、「大学内の同じ学科や研究室の友人」（同35.3％）、「大学外の友人」（同34.6％）などとなっている。これに対して、学生が相談相手としてあげられることが少なかったのは、「なんでも相談コーナー･学生相談所等」（同2.5％）、「大学の教職員」（同2.7％）、「兄弟・姉妹」（同12.1％）となっている。これらは、前回あるいは前々回と順位は若干異なるが、ほぼ同じ傾向である。

なお、相談したり話し合ったりするのも男子より女子の割合の方が高い。たとえば、「父・母」に「よく相談する」と「ときどき相談する」を合わせると、男子は37.5％に対して、女子は63.1％となっている。「兄弟・姉妹」、「大学内

の同じ学科や研究室の友人」、「大学内のサークルや団体の友人」、「大学外の友人」、「先輩」、「恋人」のいずれも、男子より女子の方が相談したり話し合ったりする割合が高い。（クロス集計表３－２－１～９表）

最近６ヶ月の間に、体験したり悩んだりしたことで、最も多いのは、「強い不安に襲われた」で「よく体験した」と「時に体験した」を合わせて49.2％）、次いで「気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった」（同37.4％）、「やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった」（同37.2％）、「人と話していてとても緊張したり、不安を感じた」（35.3％）などとなっている。これに対して、体験したり悩んだりしたことで少ないのは「バス・地下鉄・電車などの乗り物に乗るのがこわかった」（同3.5％）、「体の病気でもないのに、息切れ・めまい・動悸などがした」（7.7％）、「食欲がなくなり、食べ物を口にしたくないと思った」（同11.3％）などとなっている（図12）。これらも前回とほとんど同じ傾向である。

こうした体験や悩んだりしたことについても、多くの項目で男子より女子の方が高い割合になっている。たとえば、「強い不安に襲われた」は、「よく体験した」と「時に体験した」を合わせて男子47.4％に対して、女子55.7％となっている。また、「気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった」は男子34.6％、女子47.1％、「人と一緒にいてもさびしい感じがした」は男子26.2％、女子38.3％、「やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった」は男子35.7％、女子42.8％、「ついつい過食してしまう傾向があった」は男子22.6％に対して、女子42.7％となっている。これに対して、男子の割合の方が高いのは、「他の人が自分に敵意を持っている、人から監視されていると感じた」項目のみで、男子15.0％、女子11.3％となっている。（クロス集計表３－３－１～12表）

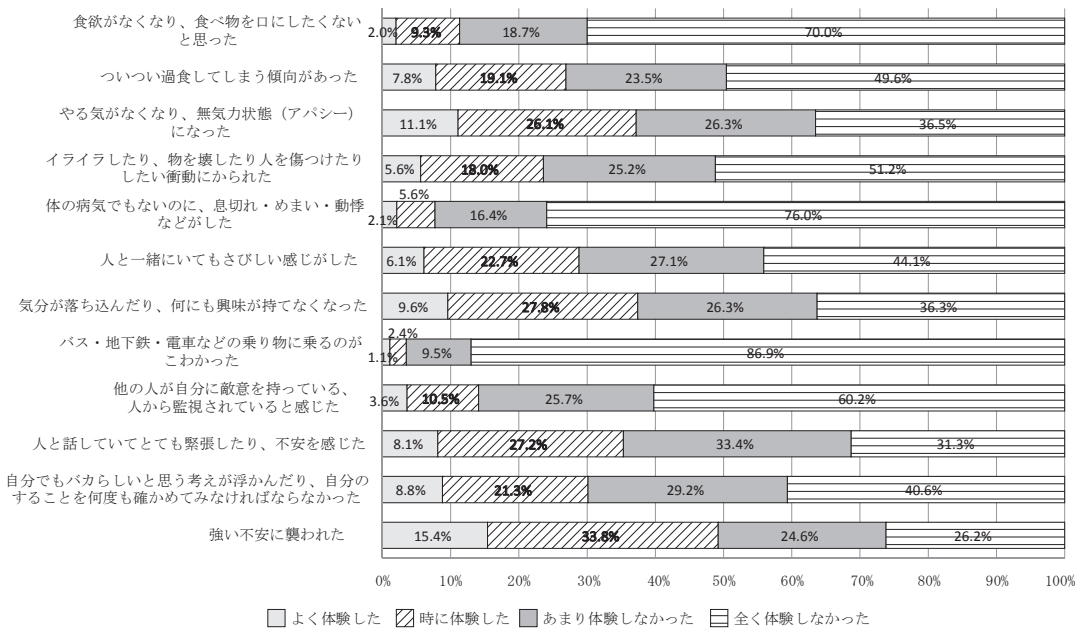


図12　メンタルヘルスに関わる体験

こうした悩みや不安を解消するための大学の対応として最も多くの学生が挙げたのは、「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する」（「全くそう思う」と「まあそう思う」を合わせて67.3％）で、３分の２以上の学生が挙げている。これに次いで、「就職指導や進路指導の機能を充実させる」（64.8％）、「学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる」（60.2％）といった相談・指導機能の強化が挙げられている。これに対して「クラス担任制度やチューター制度を充実させる」（29.3％）や「教務課や学生課などの事務機能を充実させる」（35.1％）はあまり支持されていない。これらも前回とほとんど同じ傾向である（図13）。

男女別では、多くの項目で男子より女子の方が対応を望む者の割合が高い。しかし、最も対応が望まれている「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する」については、男女による差はない（クロス集計表３－４－１～10表）。

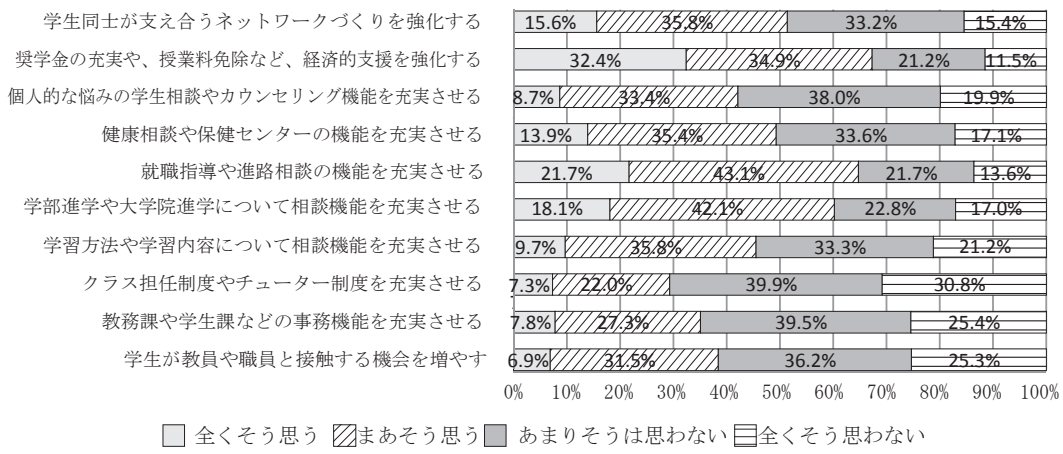


図13　大学に望む対応

また、「過去１年間に体調の不調があった」について、「よくあった」6.7%、「ときにあった」36.4%と合わせると43.1%の学生が何らかの体調の不調があったとしている。これを男女別に見ると、男子では「よくあった」6.3%、「ときにあった」35.3%で合わせて41.6%であるのに対して、女子では、同じく7.9%と40.5%で合わせて48.4%と、女子の方が体調の不調を訴える割合が高い（図14）。

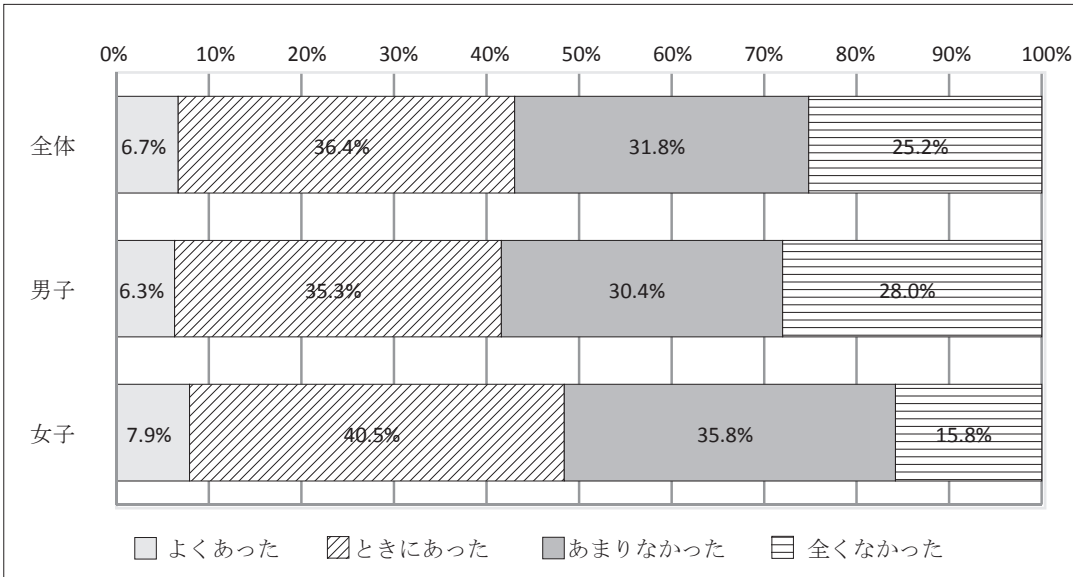


図14　体の不調の程度

体調の不調があった時の対処法としては、「地域のクリニックや病院を受診」が31.1%で最も多く、次いで「家族に相談」28.3%「保健センターの診療部の受診」17.1%の順になっている。（クロス集計表３－６表）

「大学が行っている保健サービス」で最も利用されているのは、「定期健康診断」の64.5%で、次いで「保健センターのホームページや掲示板に掲載された健康情報や通知にアクセス」11.9%、「保健センターの健康診断書や健康診断証明書の発行」11.5%などとなっている。また、「大学が行っている保健サービス」には39.0%が「満足」で、「不満」は9.4%となっている。（クロス集計表３－７～８表）

１－４．大学への要望

前回１位だった「カリキュラムの改革」が後退し、第１位は、「施設設備の充実」となった。「図書館の充実」、「授業の方法の工夫･改善」、「就職対策の充実」、「奨学金（育英資金）･育英貸付金などの拡充や増額」、「カリキュラムの改革」、「海外留学の支援」が続く。

大学への要望で「とても期待する」と「期待する」を合わせて最も多いのは「施設設備の充実」で79.3％にのぼる。次いで、「図書館の充実」78.9％、「授業の方法の工夫･改善」75.8％、「就職対策の充実」67.3％、「奨学金（育英資金）･育英貸付金などの拡充や増額」67.1％、「カリキュラムの改革」67.0％などとなっている。これに対して、大学への要望が比較的少ないのは、「単位認定や学年試験を厳しく」12.3％、「学生自治の尊重」27.4％、「カウンセリング・相談体制の充実」30.4％などとなっている（図15）。

この質問は、前回調査までは、「３つまで選択」であったが、今回の調査では、それぞれの項目について、「とても期待する」、「期待する」、「どちらともいえない」、「期待しない」、「まったく期待しない」の５段階でたずねている。このため、厳密な比較は出来ないが、前回調査で最も多かったのは、「カリキュラムの改革」であった。

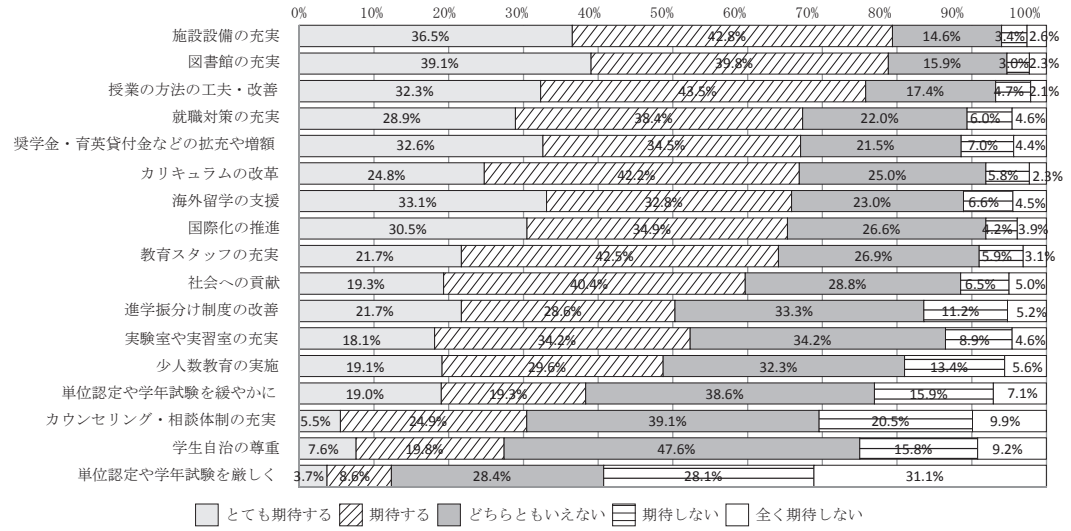


図15　大学への要望や期待

男女別には、女子の方が期待する割合が高い項目が多い。「とても期待する」と「期待する」を合わせて、「カウンセリング・相談体制の充実」は男子28.3％に対して、女子は38.4％、「社会への貢献」は男子57.1％、女子69.5％、「海外留学の支援」は男子63.2％、女子76.4％、「少人数教育の実施」は男子47.1％、女子55.0％、「就職対策の充実」は男子65.0％、女子76.1％、「国際化の推進」は男子63.2％、女子73.5％となっている。

また、文科系理科系別では、「実験室や実習室の充実」は、文科系33.8％に対して、理科系65.3％と大きな差がある。これに対して、「カウンセリング・相談体制の充実」では、文科系34.6％、理科系27.6％、「少人数教育の実施」は文科系58.6％、理科系41.8％と、いずれも文科系の期待が大きくなっている（クロス集計表４－１－１～17表）。

第２部　学生生活の背景

２－１．家庭の状況

家庭の所在地は58.5％が関東
家計支持者は「父」が66.7％、「母」が30.0％
職業は「父」の「管理的職業」が42.3％、「母」の「非正規」が31.6％
年収額は1,550万円以上が14.1％と2.5ポイント減り、450万円未満が16.6％

家庭の所在地は、「東京都」27.0％、東京都以外の「関東」が31.5％、合計すると58.5％である。詳しくみると、「東京都」や東京都以外の「関東」の比率はそれほど変化していない（図16－１）。男女別では、女子の「東京都」で多少の変化がある程度でほぼ横ばいとなっている（図16―２、図16―３）。

前回調査より家計支持者を父と母に分けてたずねている。家計支持者は「父」が66.7％、「母」が30.0％である（クロス集計表５－５表）。

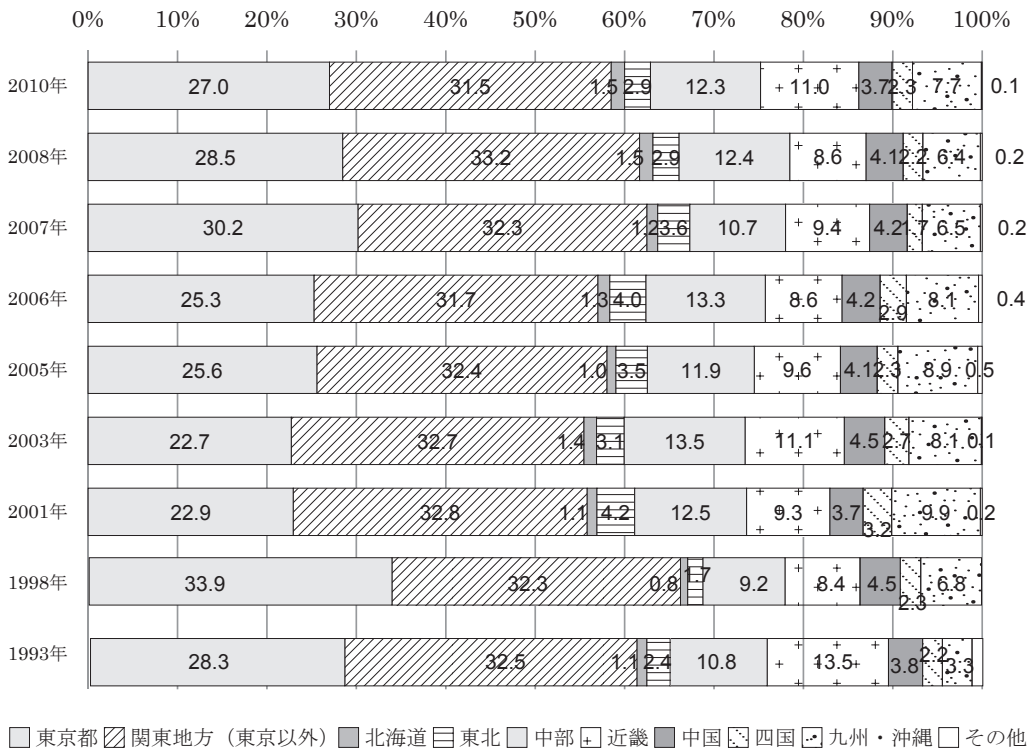


図16　家族の所在地（全体）

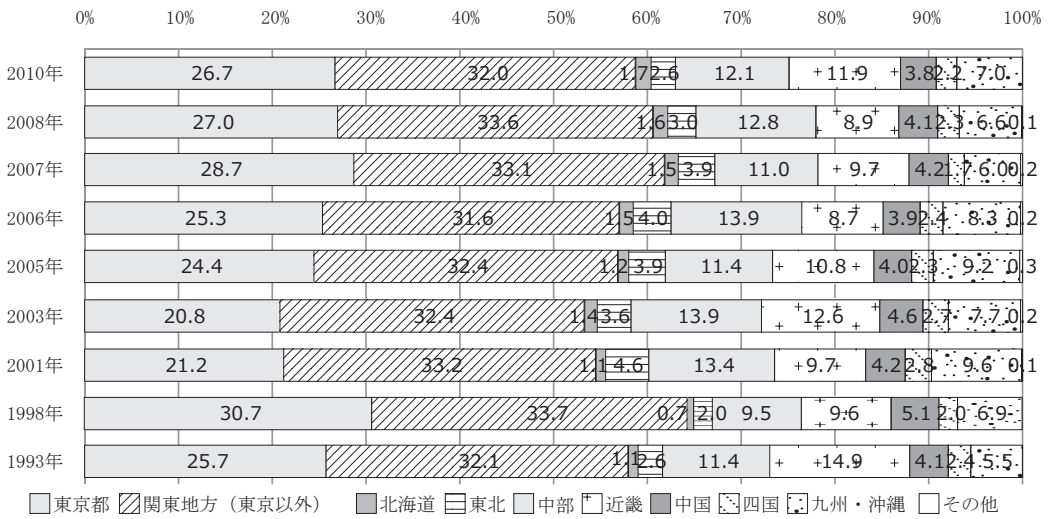


図16－２　家庭の所在地（男子学生）

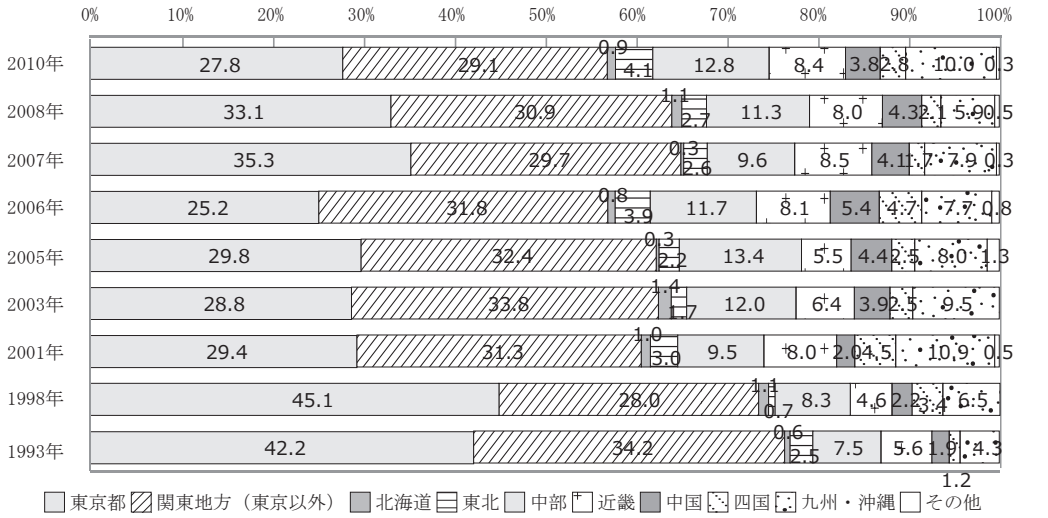


図16－３　家庭の所在地（女子学生）

「父」の職業は、「管理的職業」42.3％、「専門的、技術的職業」24.2％、「教育的職業」13.1％で、「母」の職業は、「非正規」31.6％、「教育的職業」19.0％、「専門的、技術的職業」16.7％となっている（クロス集計表５－６～７表）。家計支持者の雇用形態は、「父」では、「民間企業に勤務」60.2％、「官公庁に勤務」23.1％、「経営者・役員又は人を雇用している」10.9％で、「母」では、「民間企業に勤務」60.0％、「官公庁に勤務」25.1％、「自分一人」9.5％などである（クロス集計表５－８～９表）。

世帯の年収額の分布状況は、「450万円未満」が16.6％、「450万円以上750万円未満」が17.0％、「750万円以上950万円未満」が14.7％、「950万円以上1,050万円未満」が16.7％、「1,050万円以上1,250万円未満」が10.7％、「1,250万円以上1,550万円未満」が10.3％、「1,550万円以上」が14.1％となっている。前回調査との比較では、「450万円未満」が17.6％から1.0ポイント減少し、「450万円以上750万円未満」が13.7％から3.3ポイント増加し、「1,550万円以上」では16.6％から2.5ポイント減少している。（図17－１）

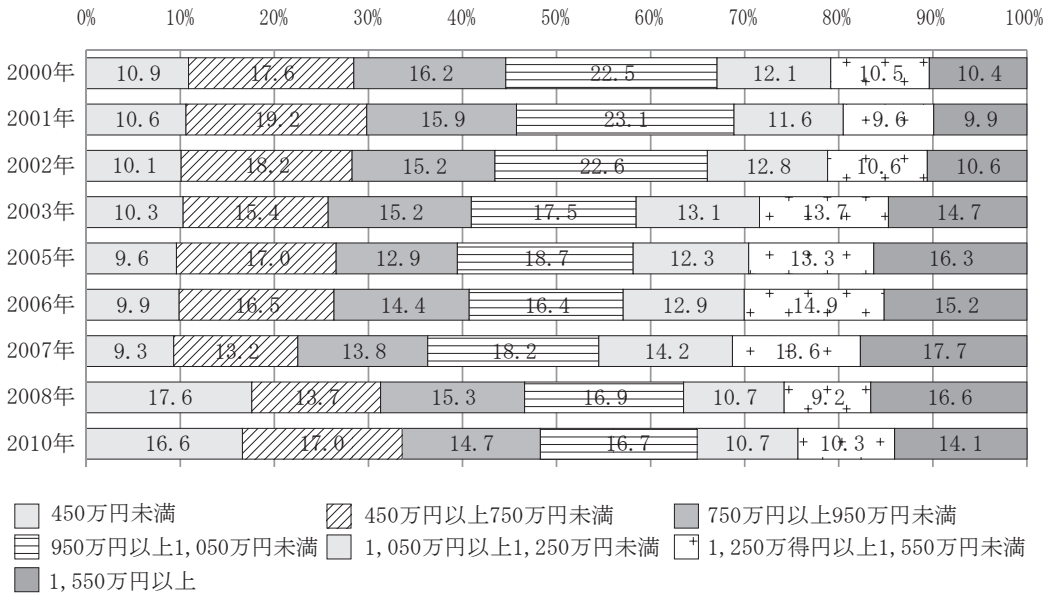


図17－１　世帯の年収額分布

世帯の年収額分布状況の男女別では、「450万円未満」が男子で17.6％、女子で11.8％と5.8ポイントの差がある。一方で「1,550万円以上」は男子で12.5％、女子で19.7％とこちらは7.2ポイントのひらきがある（図17－２）。

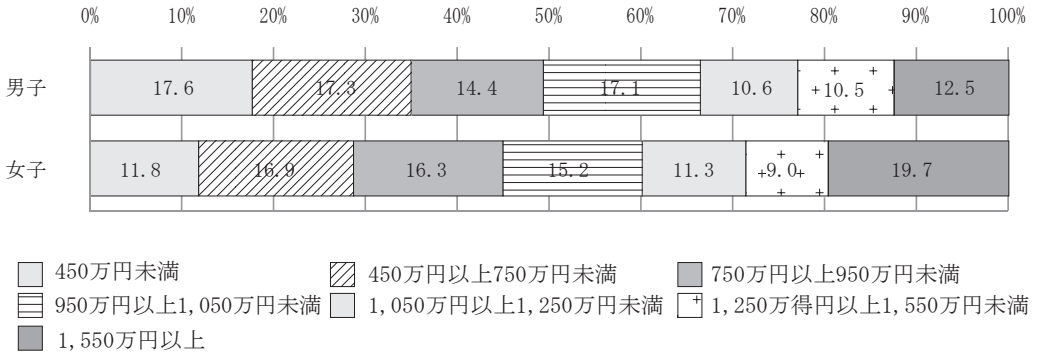


図17－２　世帯の年収額分布（男女別）

さらに、世帯の年収額分布状況の文科系・理科系別では、文科系・理科系で比較的に差があるのは、「450万円未満」で「文科系」18.2％、「理科系」15.5％、「950万円以上1,050万円未満」で「文科系」13.9％、「理科系」18.8％、「1,550万円以上」で「文科系」16.4％、「理科系」12.5％となっている（図17－３）。

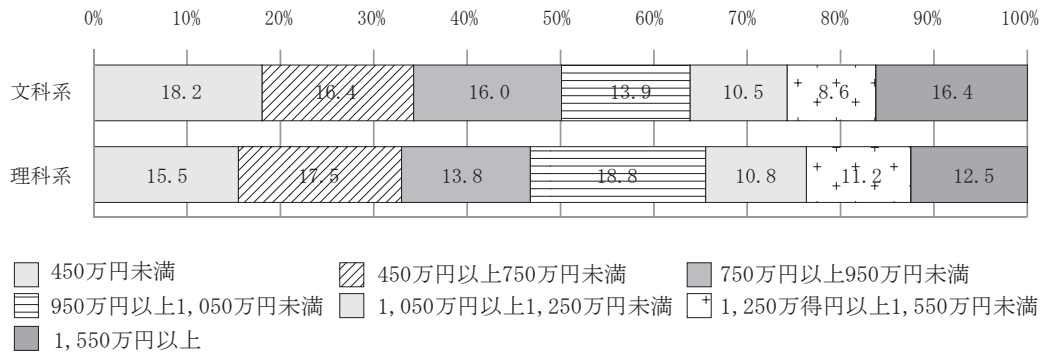


図17－３　世帯の年収額分布（文科系・理科系）

農正門

２－２．生活費の状況

生活費の「支出合計額」は107,710円　「収入合計額」は104,020円
今年度初めて調査した「預貯金」は43,090円、男子（45,710円）のほうが女子（34,520円）より多い
収入は「家庭からの仕送り・小遣い」が６割、「アルバイト・雑収入」が３割
授業料の捻出手段は「家庭からの仕送り」が８割で、「奨学金」「授業料免除」がそれぞれ１割弱

１ケ月あたりの生活費をみると、「支出合計額」は107,710円、「収入合計額」は104,020円で、前回（2008年）の支出合計額101,100円、収入合計額102,650円と比較すると、わずかに上昇した（円の位で四捨五入している。以下同じ）。

1986年からの変化をみてみると、支出・収入とも約10～13万円の範囲内にある。大きな傾向として、1980年代後半の収入の増加と、2000年代後半の減少傾向がみられる（図18―１）。

年度	支出合計額	収入合計額
1986	95, 900	102, 800
1987	100, 500	109, 600
1988	102, 900	111, 800
1989	108, 200	117, 600
1990	113, 600	124, 400
1991	114, 400	124, 400
1993	114, 200	121, 900
1994	112, 400	121, 100
1995	105, 800	119, 000
1996	114, 700	123, 700
1997	111, 500	122, 800
1998	109, 600	113, 400
2000	111, 230	121, 630
2001	114, 800	121, 700
2002	113, 140	119, 460
2003	113, 930	117, 710
2005	98, 110	110, 410
2006	111, 050	112, 370
2007	106, 170	105, 790
2008	101, 100	102, 650
2010	107, 710	104, 020

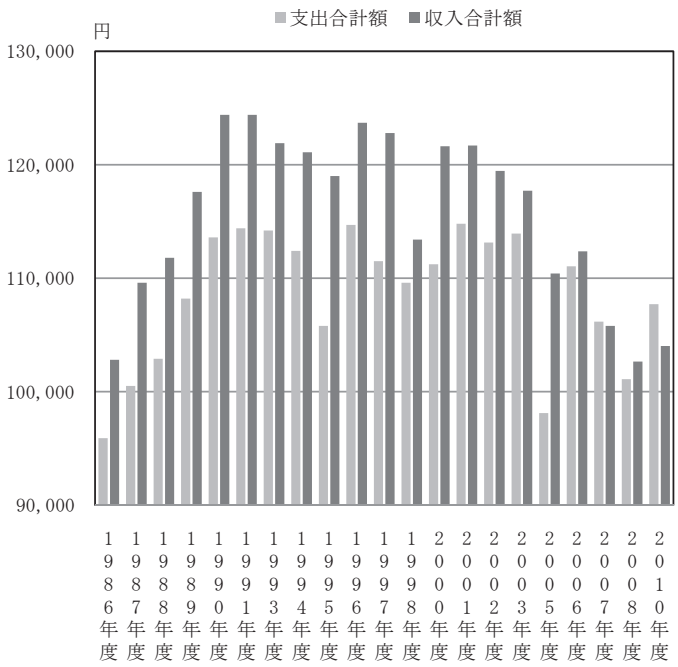


図18－１　支出と収入の時系列変化

項目別支出をみると、「住居費」（62,790円）が最も高く、項目別合計額の３分の１を占めている。次いで、今年度初めて調査を実施した「預貯金」（43,090円：24.6％）が高くなっており、「食費」（23,830円：13.6％）がこれに続く。「勉学費」（6,890円：3.9％）や「教養・娯楽費」（8.1％）等の支出額は低い。（図18－２）

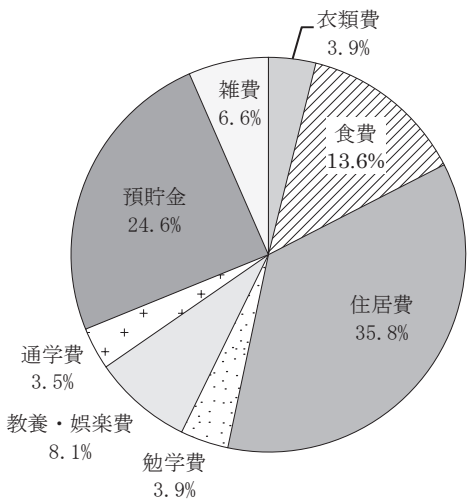


図18－２　項目別支出（内訳）

「食費」は自宅生では15,350円であるが、自宅外生では31,470円と倍以上になっている。さらに、「通学費」では、自宅生8,850円に対して、自宅外生は3,610円と自宅生の方が２倍以上高くなっている。このため、支出合計でも自宅生平均65,500円に対して、自宅外生は145,120円と倍以上の差がある。（クロス集計表６－２表）

男女別にみてみると、「支出合計額」（男子：107,390円、女子：109,130円）の差は小さいが、それぞれの項目別には差がみられる。男子は「食費」（同：24,550円、同：21,360円）や「預貯金」（同：45,710円、同：34,520円）が高く、女子は「衣料費」（同：6,090円、同：9,230円）や「住居費」（同：62,280円、同：65,010円）が高くなっている。また、学年が上がるほど支出額が増える傾向がみられる。（表１）

表１　項目別支出（性・学年別）　（円）

	全体	性別		学年別					
		男子	女子	１年	２年	３年	４年	５年（医学・薬学・獣医）	６年（医学・獣医）
衣料費	6,790	6,090	9,230	6,230	7,260	6,300	6,890	13,000	9,530
食費	23,830	24,550	21,360	21,130	22,780	23,540	26,430	30,060	42,500
住居費	62,790	62,280	65,010	55,930	59,080	68,190	63,270	101,570	82,000
勉学費	6,890	7,000	6,510	5,.360	6,770	7,320	7,430	16,530	10,690
教養・娯楽費	14,270	14,490	13,350	12,840	15,400	14,260	13,810	24,130	20,940
通学費	6,070	5,710	7,330	5,690	6,990	6,100	5,850	2,470	1,000
雑費	11,500	11,250	12,430	9,880	10,710	11,470	13,010	21,760	17,630
預貯金	43,090	45,710	34,520	41,310	46,250	38,160	41,670	125,810	55,270
支出合計額	107,710	107,390	109,130	88,830	105,640	110,200	118,090	180,120	176,120

収入を項目別にみてみると、「家庭からの仕送り・小遣い」（64,230円：57.3％）が最も高く、６割を占める。「アルバイト･雑収入」（31,910円：28.5％）が３割、「奨学金」（15,080円：13.5％）が１割で、今年から調査を開始した「ローン・クレジット・借入金」は860円（0.8％）しかない。（図18－３）

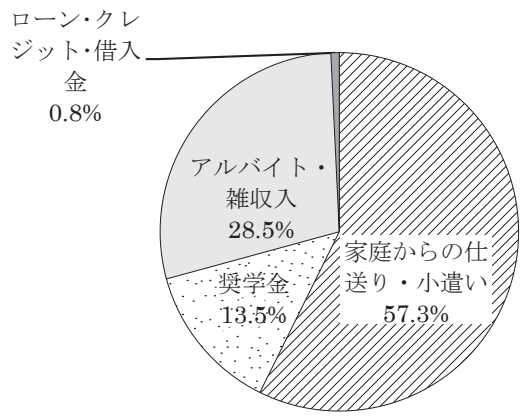


図18－３　項目別収入（内訳）

「奨学金」は全学生の平均では15,080円であるが、奨学生のみの平均では55,520円となっている。「アルバイト･雑収入」についても、同様にアルバイト従事者についてのみの平均は、38,480円となっている。「奨学金」については差が見られないが、「家庭からの仕送り・小遣い」では、アルバイト従事者の平均60,120円に対して、非従事者は81,650円と高くなっている。また、「ローン･クレジット･借入金」は、０円と回答した者を除くと、平均41,830円となっている。最高では210,000円ときわめて多額になっている。

「家庭からの仕送り･小遣い」は、自宅生の26,220円に対して、自宅外生は97,860円と３倍以上の差がある。また、「奨学金」についても自宅生の6,310円に対して、自宅外生は21,120円と高くなっている。しかし、「アルバイト」は自宅生の35,590円に対して、自宅外生は28,960円と自宅生の方がやや高くなっている。「収入合計」では、自宅生の62,210円に対して、自宅外生は141,830円となっている。（クロス集計表６－３）

最も金額の高い「家庭からの仕送り・小遣い」を属性別にみてみると、男子（64,880円）の方が女子（62,590円）よりやや高く、学年が上がるほど高い傾向がみられる。一方、金額の最も低い「ローン・クレジット・借入金」は、女子（1,420円）と、１年生（1,460円）で高くなっている。（表２）

表２　項目別収入（性・学年別）

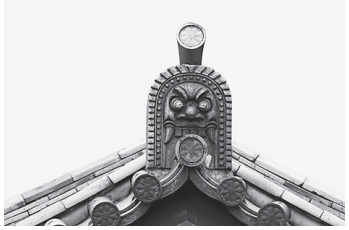
（円）

	全体	性別		学年別					
		男子	女子	１年	２年	３年	４年	５年（医学・薬学・獣医）	６年（医学･獣医）
家庭からの仕送り・小遣い	64,230	64,880	62,590	53,340	60,700	62,340	71,510	169,500	125,380
奨学金	15,080	15,590	11,940	11,790	16,090	18,980	13,850	15,690	10,000
アルバイト・雑収入	31,910	30,990	35,020	20,230	37,360	35,510	34,410	20,590	38,440
ローン･クレジット･借入金	860	710	1,420	1,460	960	200	870	200	0
収入合計額	104,020	104,100	103,590	79,690	107,600	106,860	113,120	197,060	172,070

「授業料はどのように負担しているか」をたずねた結果は、81.0%が「家庭からの仕送り」と回答し、次いで「奨学金」（7.4%）となっている。「全額授業料免除」（5.2%）、「半額授業料免除」（1.7%）を合わせて１割近くが授業料免除を受けており、５年生（10.5%）、６年生（11.1%）の全額授業料免除率が高い。（表３）

表３　授業料の捻出

	全体	性別		学年別					
		男子	女子	１年	２年	３年	４年	５年（医学・薬学・獣医）	６年（医学・獣医）
家庭からの仕送り	81.0%	80.2%	85.1%	85.4%	81.1%	77.9%	79.7%	84.2%	77.8%
奨学金	7.4%	7.6%	6.7%	4.7%	8.4%	9.4%	7.5%	0.0%	5.6%
アルバイト・雑収入	3.1%	3.0%	3.2%	0.8%	2.6%	4.7%	4.4%	10.5%	11.1%
全学授業料免除	5.2%	5.6%	2.6%	5.2%	5.1%	5.5%	4.4%	10.5%	11.1%
半額授業料免除	1.7%	1.9%	0.9%	1.4%	1.8%	0.8%	2.4%	5.3%	0.0%
その他	1.7%	1.7%	1.5%	2.5%	1.0%	1.7%	1.7%	0.0%	0.0%



七徳堂鬼瓦

七徳堂

２－３．通学・住居

現住所は、東京都が73.0％、自宅が48.1％
片道の通学所要時間は、平均46.6分で、減少傾向
自宅生でも学寮・学生宿舎を作れば「入居する」が7.5％、「入居費による」が32.6％

調査回答者のうち、現住所の分布は、東京都73.0％（23区内60.7％、23区外12.3％）、神奈川県12.5％、千葉県6.0％、埼玉県7.0％となっている（クロス集計表７－１表）。

居住形態は、「自宅」が48.1％（男子47.8％、女子49.1％）、「自宅外」が51.9％（男子52.2％、女子50.9％）となっていて、男女差はほとんどない（クロス集計表７－２表）。

自宅外生の住居の区分は、例年同様に「賃貸マンション・アパート（バスつき）」の割合が70.8％と最も高く、ついで「その他の寮」が11.7％である。「賃貸マンション・アパート（バスつき）」は前回調査より1.9ポイント増加している。

「通学に利用している交通機関」では、「電車」71.7％、「自転車」20.7％、「徒歩」5.4％、「バス」1.1％と続いている（クロス集計表７－４表）。

通学所要時間は、片道平均46.6分で、近年の動向をみると1995年に55.7分と最も長かったが、その後はおよそ減少傾向になっている（図19）。

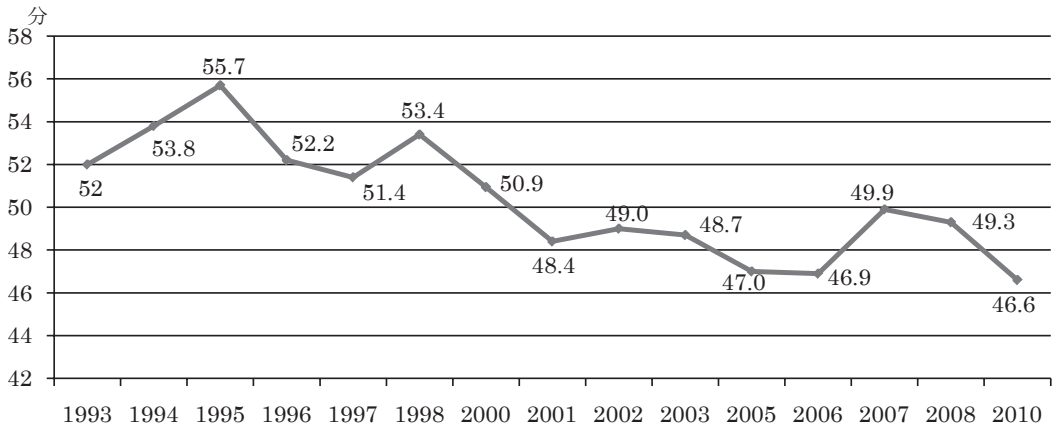


図19　通学所要時間（片道）

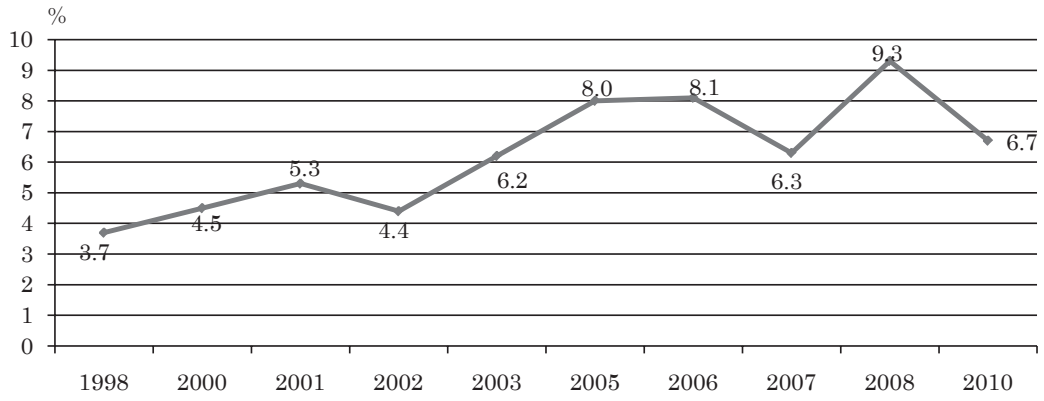


図20　東大の学寮の居住率

東大の学寮居住者は、6.7％である。前回調査の2008年が最も高く9.3％である（図20）。

なお、東大の学寮の居住者割合について寮の収容数は、6.7％より低く、本調査では非寮生よりも寮生の回答率が高かった。寮の入居率は90％を超えているとのことであるが、建て替え等により、入居可能数は変化する。しかし、いずれにせよ学部学生の6.7％を受け入れるほど学寮の収容数は無いので、本調査結果には留意が必要である。

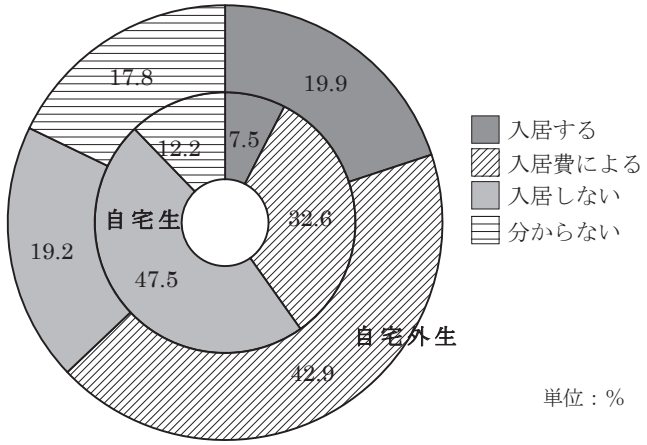


図21　学寮・学生宿舎に入居希望（外側：自宅外生、内側：自宅生）

前回調査から設けられた、「学寮・学生宿舎などを作れば、あなたは入居しますか」との質問に対し、図21に示すように、自宅外生では「入居する」が19.9％いる一方で、「入居しない」が19.2％である。「入居費による」と答えている学生が、前回調査より3.9ポイント増加し42.9％と最も多い。逆に自宅生でも「入居する」が7.5％、「入居費による」と答えた学生もあわせると40.1％もの学生が適当な学寮・学生宿舎があれば入居したいと思っている。

２－４．奨学金

奨学金を希望している学生は36.2%、受けている学生は22.7%
奨学金の78.8%は日本学生支援機構から貸与を受けている

奨学金を希望している学生は36.2%である。そのうち、「受けている」と答えた学生の割合(22.7%)は前回調査(22.0%)より増加の傾向が見られ、「受けたいが受けられなかった」と答えた学生の割合（13.5%）は前回調査（14.6%）より減少の傾向が見られた。すなわち、時系列に見れば、奨学金を受けている学生の数が増え続ける一方、受けられないケースが減少し、奨学金が受けやすくなっている（図22)。

また、奨学金を希望していない学生は63.8%（「受ける必要はない」58.5%、「受けたくない」5.3%）であり、前回調査より増加の傾向が見られた。男女別には、「受けている」と答えた男子の割合（23.4%）は女子（20.1%）より高く、「受けたいが受けられなかった」と答えた男子の割合（12.9%）は女子（15.7%）より低い。男子の方が女子より奨学金を多く受けている。また、奨学金を受けている割合を学年別に見れば、1年生（17.0%）が最も低く、3年生（28.8%）が一番高い。また、文科系（20.5%）より理科系（24.3%）の方が奨学金を受ける学生が多い。

奨学金の受給は、主に家計所得と学業成績により決定される。本調査では、学業成績についてたずねていないので学業成績についてはこれ以上分析できないが、家計所得に関しては、男女別あるいは文科系理科系別に有意な差は見られない。

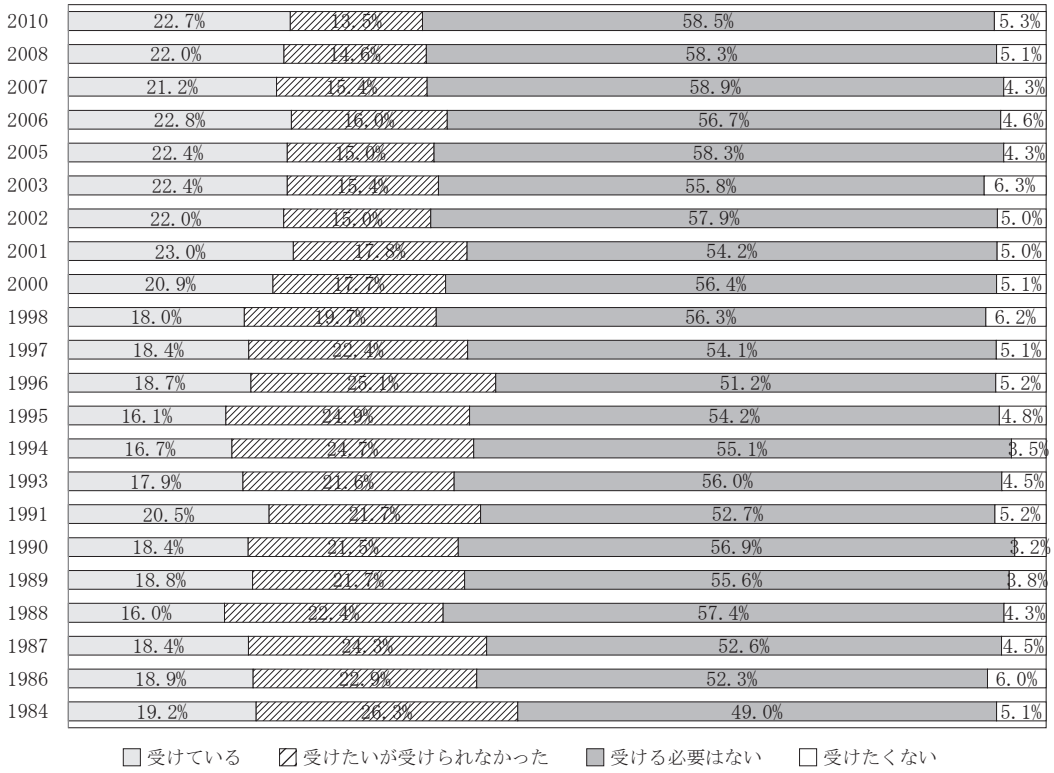


図22　奨学金受給状況

「受けたいが受けられなかった」あるいは「受けたくない」と回答した理由は、「貸与なので申請しなかった」が最も多く（36.5％）、「資格がない」（27.4％）、「事務手続きが煩雑だから」（12.5％）が続いている。男女別に見ると、「出願したが採用されなかった」と答えた男子の割合（7.7％）が女子（13.8％）より低い。また、学年別には、「貸与なので申請しなかった」と答えた１年生（28.8％）が３割以下であるのに対して、２年生以上の学年の学生は４割近くになっている。

「これから受けたいと思いますか」という項目に対し、「受けたい」と答えた学生（46.2％）の方が「受けたくない」と答えた学生（53.8％）より少ないが、男子（41.8％）より女子（64.0％）、文科系（37.3％）より理科系（53.0％）の学生の方が奨学金を受けたい、という結果になっている。

利用している奨学金の内訳は、「日本学生支援機構第一種奨学金（無利息）」が46.7％であり、「同機構第二種奨学金（利息付）」が32.1％であった。一方、その他の「公益法人等地方公共団体の奨学金」を利用している学生は20.3％であった。利用学生の圧倒的多数が日本学生支援機構から貸与を受けていることは、これまでの傾向と変わらない。男女別に見ると、「日本学生支援機構第一種奨学金（無利息）」を受ける学生のうち、女子（52.1％）の方が男子（45.5％）より多く受ける一方、同機構第二種奨学金（利息付）を受ける学生のうち、女子（23.3％）の方が男子（34.5％）より少ない。「公益法人等・地方公共団体等の奨学金」を受ける学生のうち、理科系（21.3％）の方が文科系（18.4％）より多く、「大学独自の奨学金（学内奨学金）」を受ける学生のうち、文科系（2.1％）の方が理科系（0.4％）より多い。

奨学金がどんな面で役に立っているのかという点については、「家庭の経済的負担が軽減される」42.3％、「奨学金があるので生活が成り立っている」19.1％、「多少ともゆとりのある生活ができる」18.3％、「アルバイトが軽減される」11.4％、「定期的な収入になるので助かる」7.7％の順になっている。奨学金の主な用途は家計負担の軽減であることが分かる。男女別に、「アルバイトが軽減される」と答えた男子（11.8％）は女子（9.6％）より多く、男子にとって奨学金の受給がアルバイトの軽減により効果的であると言える。「奨学金があるので生活が成り立っている」と答えた女子の割合（20.0％）は男子（18.7％）よりやや多く、理科系（20.7％）の方が文科系（16.5％）よりやや多い。

法文２号館アーケード

２－５．アルバイト

アルバイトをしている学生が80.1％、「塾講師」、「家庭教師」が多い
アルバイト収入の使途としては、「生活費」が37.8％、「学生生活を楽しむため」が33.3％
週に11.4時間、月額で43,100円

アルバイトをしていると回答した学生は、全体で80.1％（「継続的（１ヶ月以上）」53.8％、「臨時（１ヶ月未満）」11.1％、「継続的＋臨時」15.2％）で、前回調査との比較では全体で1.0ポイントの減少、「継続的」で1.0ポイントの減少、「臨時」で2.6ポイントの増加、「継続的＋臨時」で2.6ポイントの減少となっている（図23）。

アルバイトの種類は、全体で「塾講師」27.8％、「家庭教師」23.5％、「販売・セールス・サービス業」13.3％、「試験監督・採点」11.7％が上位で、男子の場合は「塾講師」29.7％、「家庭教師」22.4％、「販売・セールス・サービス業」11.5％、女子では「家庭教師」26.1％、「塾講師」22.2％、「販売・セールス・サービス業」18.6％、「試験監督・採点」11.5％と続いている（クロス集計表９－２表）。

アルバイトの従事時間数は１週間あたり11.4時間、１ヶ月あたりの収入額43,100円で、前回調査と比べると、時間で週あたり約0.2時間増えているものの、収入では月額3,900円の減少となっている。なお、近年の動向をみると、時間はほとんど横ばいであるが、収入は2006年の48,840円をピークに、減少傾向である（図24―１、図24－２）。

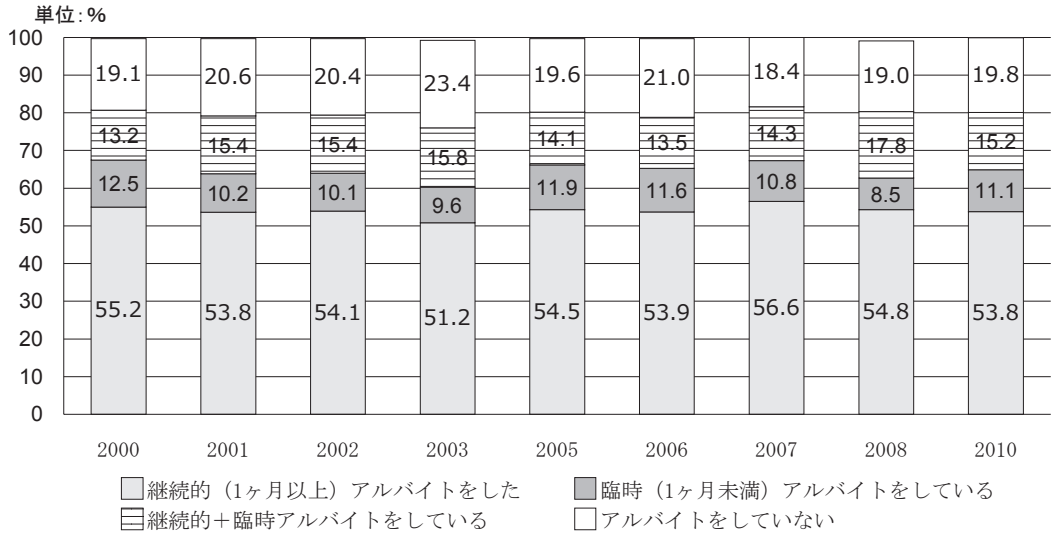


図23　過去１年間のアルバイト経験

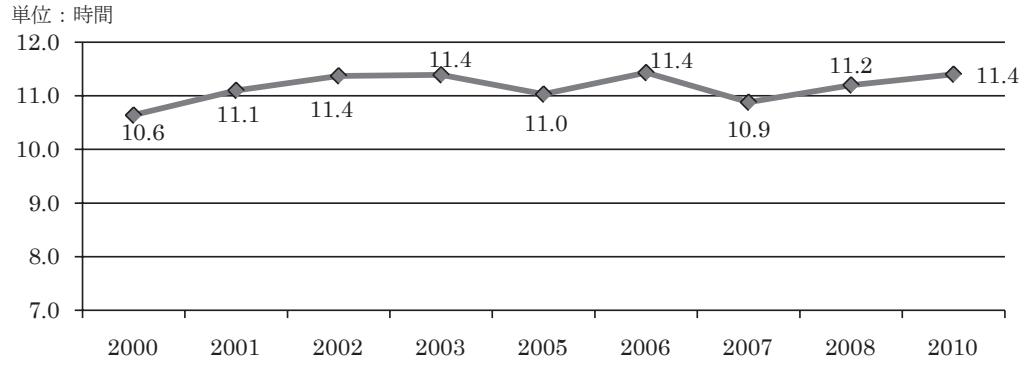


図24－１　費やす時間（１週間当たりの平均時間）

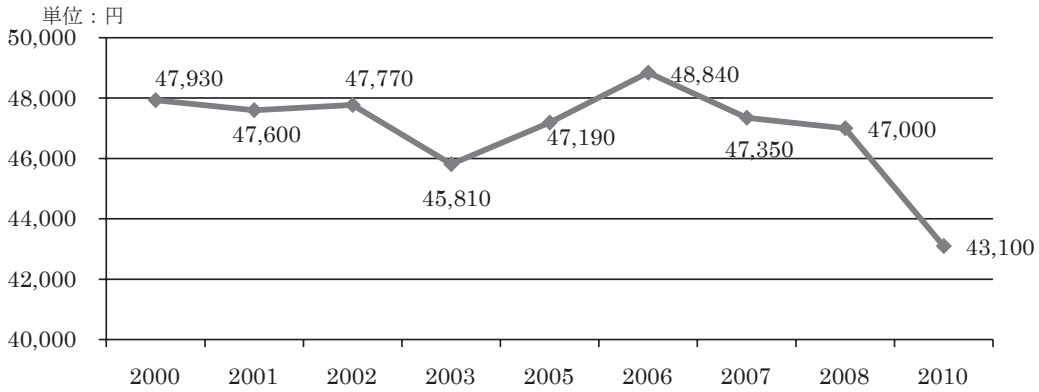


図24－２　収入額（１ヶ月あたりの平均額）

アルバイトをした理由では、「生活費を稼ぐため」を挙げている学生が37.8％と最も多く、「学生生活を楽しむため」33.0％、「社会経験のため」23.4％、「学費を稼ぐため」2.2％となっている。男女別では特に顕著な差がみられるのは、「生活費を稼ぐため」が男子39.1％、女子34.3％と、男子の割合が高く、「社会経験のため」が男子21.9％、女子27.0％と女子の割合が高くなっている（クロス集計表９－４）。

「継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんか」という問いに、「かなり妨げになる（なった）」と回答した学生と「多少妨げになる（なった）」と回答した学生をあわせると、57.3％と、前回調査より0.2ポイント増加している。男女別では「かなり妨げになる（なった）」と回答した学生と「多少妨げになる（なった）」をあわせて、男子が56.6％、女子が59.4％と2.8ポイントの差がある（クロス集計表９－５）。

すべての学生に対してたずねた現在の暮らし向きについては、86.0％の学生が「普通」以上であると答えている（「かなり楽な方」27.5％、「やや楽な方」25.5％、「普通」33.0％）。その反面、13.0％の学生が苦しいと答えているが（「やや苦しい方」10.1％、「大変苦しい方」2.9％）、前回調査より4.2ポイント減少している（クロス集計表６－６）。

〔特殊分析の試み〕

東大生の不安・悩みについて

はじめに

本調査には1996年度から、得られた結果を踏まえてテーマを絞って考察する「特殊分析」が含められている。ここでは、学部学生を対象とした2007年、2008年の調査に引き続いて、「不安・悩み」について、マークシートの結果と具体的記述に書かれたことを参考にして検討してみたい。

一般の人々の中には、東大生は知的で優秀なだけでなく、たいていは経済的にも恵まれているので、悩みや不安はあまりないだろうと考える向きもあるようだ。しかし、言うまでもなく、東大生と言えども多かれ少なかれ不安や悩みはあり、なかには深刻な苦悩に苛まれる学生もいる。この調査で得られたデータを単純に他大学の学生や同年齢の青年たちと比較することはできないが、おそらくここには東大生として特徴的なことも含まれているに違いない。

1．どのような領域で不安や悩みを感じるか

調査項目１－３の「不安・悩み」の集計結果の図（ｐ13　図11）を見ると、「よく悩む」の第１位は「将来の進路や生き方」（46.3%）であり、第２位は「就職」（34.7％）である。この順位は「よく悩む」に「ときに悩む」を加えた数値（82.8％と71.5％）においても同じである。さらに、この１位と２位の順位は2007年と2008年の調査結果においても同様である（2007年：80.8％と67.2％、2008年：83.1％と68.8％）。つまり、東大の学部学生は、ここ数年、将来の進路ならびに就職において悩みが生じやすく、その数値は漸増しているように見える。特に就職について悩むものが増加しているが、このことは、東大生においても就職難の波が打ち寄せてきている（とりわけ研究者になる道が険しい）と感じている学生が増えていることの反映ではなかろうか。

「よく悩む」の第３位は、「勉学」（27.4％）である。この数値は2007年（24.6％）、2008年（25.6％）に引き続き漸増している。この点は、自由記述の中に「授業が大変である」「勉強が非常に難しく、ついていけない」「勉強に苦労していて、他の活動を行う余裕がない」といった表現が散見されることと関連するように思われる。おそらく、東大の授業で学生に要求されるレベルは（学部や教員によって違いはあるものの）他大学と比して相当高い（あるいは高くなってきている）のではないだろうか。東大生の学習能力は優れているはずなので、勉学に困難を覚える学生に何らかの援助をするシステムをもっと整備するとか、教養学部の段階ではあまりに高度なことを要求しないといった配慮が求められるかもしれない。

ここで、進学振分けのシステムについて触れておくと、Ⅱ－14の回答では「現行のままでよい」が39.9％、「特に考えていることはない」が24.0％で、おおむね受け入れられているような印象がある。しかし、自由記述欄には、このシステムの改革を望む声も寄せられていた。進学振分けには、「やりたい学問領域が大学入学後に選べる」「豊かな教養が身につけられる」といったメリットがあるが、一方で、「点数がとりやすい科目や教員に受講生が集まる」「点数至上主義が横行」「不公平」「結局、行きたい分野に進めない」といったディメリットもあると指摘する声が多く、学生の中には進学振分けによって希望の進学先に進めないため、深刻な苦悩を感じている人がいるのも事実である。「よく悩む」の第４位は学部進学や大学院進学」（26.7％）であり、第５位は「人生の意義･目標」（24.8％）、第６位は「経済的なことや経済的自立」（22.3％）である。

経済的な問題では、「ときに悩む」学生を加えると63.9％（第４位）になり、大半の学生が多少なりとも悩んでいるようであるが、なかには深刻なケースもある。たとえば、自由記述をみると、「家庭の経済状態が悪化し、将来が不安」「親の収入がなくなり学費が心配」「学費を稼ぐためアルバイトをせざるを得ないが、そのために勉強時間がとれない」「学費が高すぎる」「親の収入があるので奨学金はもらえないが、親は経済的援助を渋るのでアルバイトしなければならない」といった記述があった。

これに関連して、Ｖの「大学への要望」の自由記述を見ると、「授業料を安くしてほしい」「金銭的負担が学業の妨げにならないようにしてほしい」「返還義務のない奨学金を充実してほしい」「寮を整備してほしい」など、経済的支援の充実を希望する声が多く聞かれる。なかには、「自転車通学の登録に1,000円かかるのはやめてほしい」「食堂のメニューが高すぎる」といった記載も散見された。これらの要望からすると、東大生の中には、経済的にかなり困窮している人がいることは間違いないように思われる。

２．不安や悩みを誰に相談するか

東大生が不安や悩みを感じたとき、「よく相談する」相手は、2007年、2008年、2010年とも、父・母が第１位で、その比率はそれぞれの年で、14.7%、15.3%、18.5%と漸増している。2010年の調査では、「よく相談する」「ときどき相談する」「たまに相談する」を合わせると、78.5%の学生が親を相談相手に選んでいることになる。これは、親との関係が良好な学生が多いためかもしれないが、見方によれば、親離れができていないことを示唆しているのかもしれない。

「よく相談する」第２位から４位は恋人や友人たちであるが、「その他」や自由記述を見ると、「恋人はいない」「友人ができない」と書いている学生が複数いた。なかには、友人や恋人がいないことが悩みになっている学生もいるようだ。兄弟や姉妹に相談する学生は比較的少ないが、これは兄弟姉妹の少なさや兄弟姉妹が（一人しか）いない、あるいは兄弟姉妹と同居していないといったケースが多いからかもしれない。

悩みが生じたときに、なんでも相談コーナーや学生相談所などを利用する学生は、「よく相談する」「ときどき相談する」「たまに相談する」と答えた人の合計でみると8.1%になる。この数字は、本学の相談施設がある程度利用されていることを示唆していると思われる。

しかしながら、設問28の８を見ると、悩みや不安の解消のために「個人的な悩みの学生相談やカウンセリングの機能充実」を大学に求めるかという問いに対して、「全くそう思う」または「そう思う」と答えた者は42.1%もおり、また、Ｖ「大学への要望」の設問33の６で「カウンセリング・相談体制の充実」を「とても期待する」または「期待する」と答えた者は30.4%に上っている。さらに、自由記述のなかで、「自分は相談して有意義だったので友人にも利用をすすめたが乗り気でなかった。もっと楽な気持ちで学生相談所を訪ねることが出来たら良いと心から思う」といった記述も見られた。これらのデータからすると、専門家によるカウンセリングや学生相談体制の充実を望む学生の潜在的ニーズは相当高いようにも思われる。だとすれば、広報活動などをより充実させて、学生がもっと気軽に学生相談所等の相談施設を利用できるような体制を整備することが望ましいだろう。

３．メンタルヘルスに関わる体験について

次に、メンタルヘルスに関わる体験の有無についてみてみよう。2007年、2008年、2010年のいずれの調査でも設問27であげられた項目の中で、「よく体験した」または「時に体験した」とされる第１位は、「強い不安に襲われた」で、その比率はそれぞれの年で、50.5%、52.6%、49.2%、第２位は「気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった」（40.3%、41.4%、37.4%）、第３位は「やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった」（38.6%、39.1%、37.2%）である。こういった状態は、程度がひどくなれば「不安障害」や「鬱病」などと診断されるケースを含むだろう。この数値からすると、東大生のなかには強い不安や憂鬱な気分を体験している人がかなりいるように思われる。

第４位以下は、対人緊張・対人不安（35.3%）、強迫観念・強迫行為（30.1%）、孤独感（28.8%）、過食（26.9%）、イライラ・攻撃衝動（23.6%）などである。これらについても、かなり多くの学生が体験しているように見える。

４．体の不調と対処法

体の不調はときに不安や悩みを引き起こす。今回の調査で、体の不調を「よくあった」「ときにあった」と回答した学生は、合わせて43.1%に上る。ここに「あまりなかった」人を（「全くなかった」わけではないので）合計すると74.9%となる。彼らの中で、地域のクリニックや病院を受診した者が31.1%、家族に相談した者が28.3%、保健セ

ンターを受診した者が17.1％であった。また、その他の欄には、「寝た」「休んだ」「何もしなかった」という回答が多数見られた。これらの対処法はどれもある程度リーズナブルではないかと思われる。

保健センターの診療については、料金が安いことが利点であるが、開室時間をもっと長くしてほしい、システムをより周知してほしい、予防注射を受けやすくしてほしいなどの希望も寄せられていた。

5．大学に望む対応

不安や悩みを解消するために、学生たちが大学に望む対応にはどのようなことがあるのだろうか。2010年の調査では要望項目について「全くそう思う」と「まあそう思う」の合計の第１位が「奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する」（67.3％）、第２位が「就職指導や進路相談機能を充実させる」（64.8％）、第３位が「学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる」（60.2％）である。この３項目は、2007年、2008年の調査でも上位３位に入っている。

第４位以下では、「学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する」（51.4％）、「健康相談や保健センターの機能を充実させる」（49.3％）、「学習方法や学習内容について相談機能を充実させる」（45.5％）などが続く。

ちなみに、Ⅴ「大学への要望」に関連する自由記述について触れておくと、「（教養学部の）成績開示を駒場で、かつ簡易な方法でできるようにしてほしい」「図書館の開室時間を延長してほしい」「海外留学支援をもっと充実してほしい」「女子トイレをきれいにしてほしい」「文科系の予算・施設を充実してほしい」「食堂を大きくしてほしい」などの声が聞かれた。

6．おわりに

これらの回答からすると、最近の東大生では、進路や就職、学業の難しさ、経済的な問題などについて、不安や悩みが生じやすいように思われる。近年の状況からすれば、これらの問題で不安や悩みを抱くことは、むしろ正常で自然なことであろう。しかしながら、学生の中には、相当深刻な苦悩に苛まれている者もいる。もちろん、キャンパスライフにおいて、不安や悩み、不快や不満を全くなくすことはできないのだが、大学として、今後ともいっそう学生に利するサービスを充実させていく必要があるのは確かであろう。

〔総合分析の試み〕

ここでは、第60回（2010年）「学生生活実態調査」から、特定のトピックを選び、その総合的な分析を試みる。ここまでの分析は、男女別、学部別など質問項目の属性分析を中心としていたのに対し、ここでは、質問項目間の関連を分析の対象とした分析により、特定のトピックについて、その要因を追究する。今回は、「進学振り分け制度」について、こうした観点から分析を試みる。

「進学振分け制度」は、東京大学の教育の大きな特徴であり、他の大学に見られない制度である。このため、進学振分け制度が学生の教育とどのように関連しているか、さらに学生はどのような進学振分け制度のあり方を支持しているか、あるいは、進学振分け制度の改善はどの程度の要望や期待があるか、そしてそれらはどのような要因と結びついているか、いずれも非常に重要な論点である。こうした一連の問題に対して、「学生生活実態調査」では、「進学振分け制度についてどのように考えていますか」という質問と、「大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか」という質問で「進学振分け制度の改善」という質問を行っている。

まず「進学振分け制度についてどのように考えていますか」では、「現行のままでよい」が39.9%、「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」が21.8%、「入学時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」が14.3%、「特に考えていることはない」が24.0%となっている。

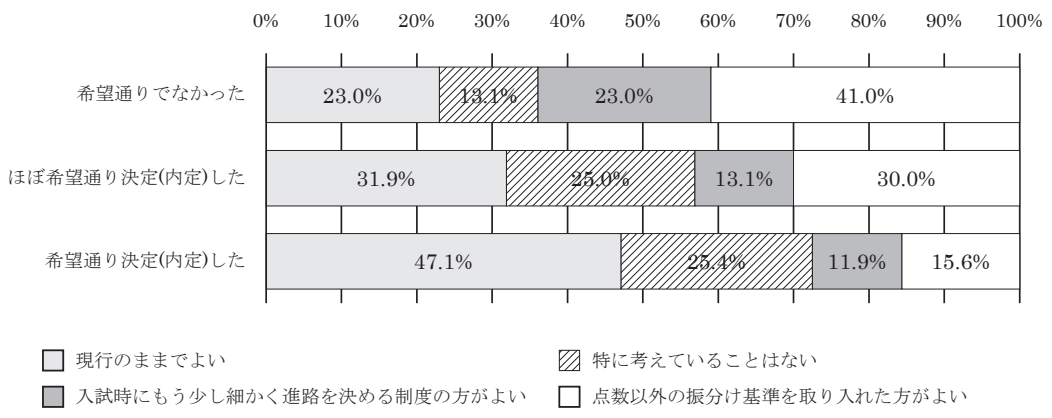


図25 「進学先が希望通りだったか」と「進学振分け制度のあり方」

これと「進学先が希望通りだったか」との関連を見ると、図25のように、「希望通り決定（内定）した」と答えた者では、「現行のままでよい」と答えた者の割合は47.1%であるが、「希望通りではなかった」と答えた者では23.0%と現行方式を支持する割合が低くなっており、代わって「入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」と答えた者の割合が23.0%、「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」と答えた者の割合が41.0%と、現行方式以外の方式への支持がかなり高い割合となっている。

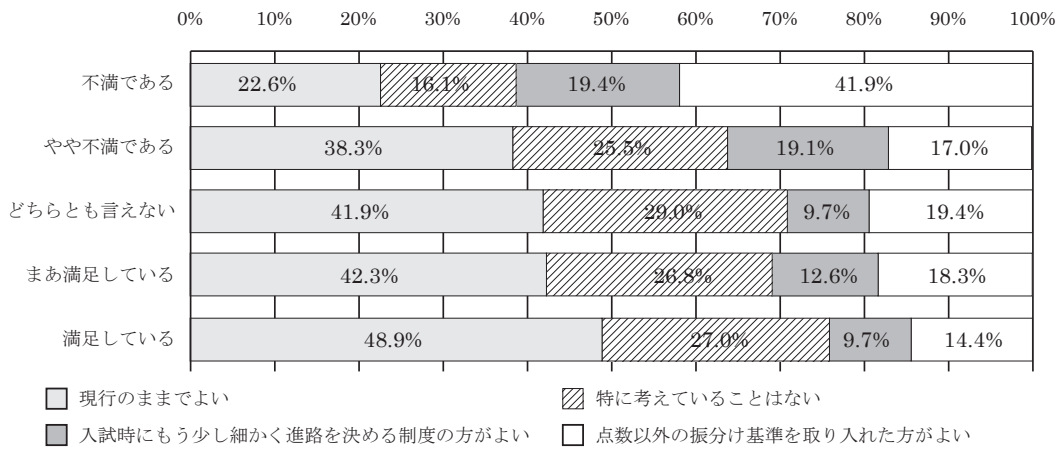


図26 「現在在籍している学部学科の満足度」と「進学振分け制度」

「現在在籍している学部学科の満足度」と「進学振り分け制度についてどう考えますか」との関連を見ると、図26のように、「満足している」と答えた者では、「現行のままでよい」と答えた者の割合は48.9%であるが、満足度が下がるに従い、現行方式の支持は下がり、「不満である」と答えた者では22.6%と現行方式を支持する割合が低くなっている。代わって前問と同様に「入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」と答える者が19.4%、「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」が41.9%と、いずれもかなり高い割合となっている。

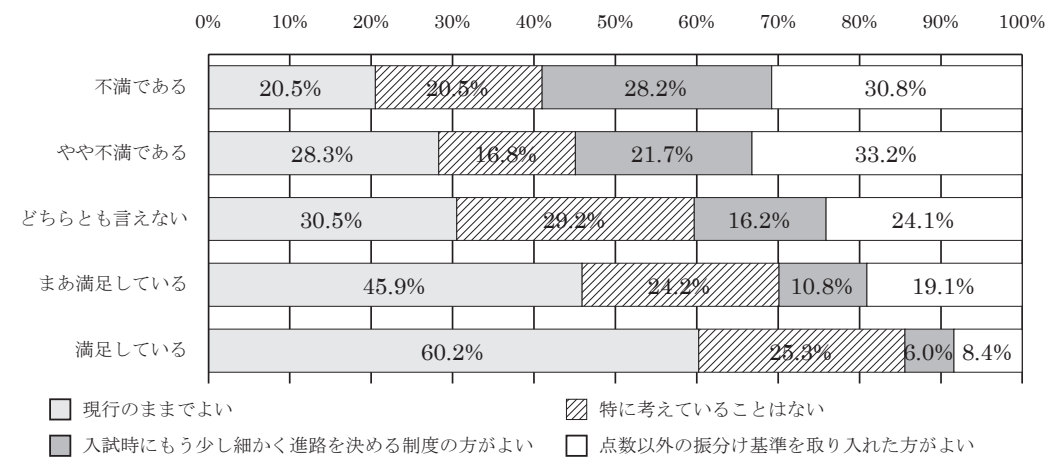


図27 「現在のカリキュラム満足度」と「進学振分け制度」

同じように、「現在カリキュラムの満足度」と「進学振分け制度についてどう考えますか」との関連を見ると、図27のように、「満足している」と答えた者では、「現行のままでよい」と答えた者が60.2%と過半数を超えているが、満足度が下がるに従い、現行方式の支持は下がり、「不満である」と答えた者では20.5%と現行方式を支持する割合が低くなっており、代わって「入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」と答えた者の割合が28.2%、「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」と答えた者の割合が30.8%と、現行方式以外の方式を支持する者が過半数をこえている。

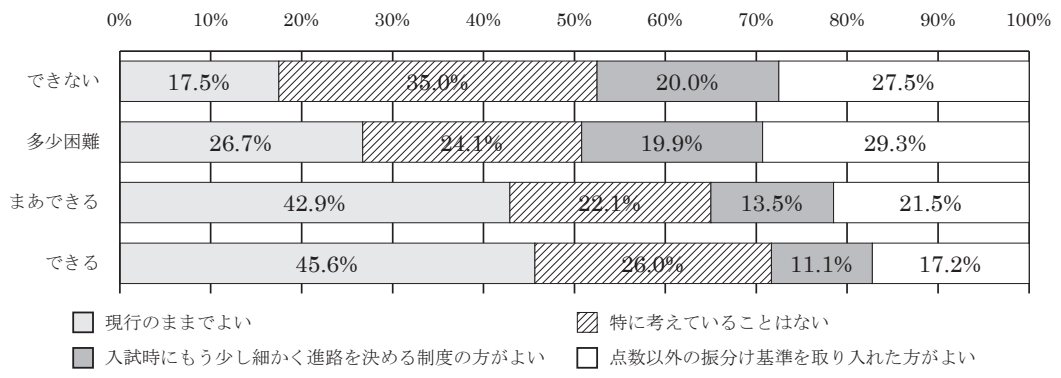


図28 「カリキュラム消化度」と「進学振分け制度」

さらに、「現在カリキュラムの消化度」と「進学振り分け制度についてどう考えますか」との間にも強い関連が見られる。図28のように、カリキュラムを消化「できる」と答えた者では、「現行のままでよい」と答えた者の割合は45.6%であるが、消化度が下がるに従い、現行方式の支持は下がり、「できない」と答えた者では17.5%と現行方式を支持する割合が約6分の1と低くなっている。代わって、これまでの設問と同様に「入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」と「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」と答える者の割合は消化度が低くなるほど高くなり、「できない」と答えた者では、「入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい」と答えた者の割合は20.0%、「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」と答えた者の割合は27.5%と、いずれもかなり高い割合となっている。ただし、いずれの方式についても、カリキュラムの消化が「多少困難」と答えた者の方が、わずかに高い割合を示している。

これまで、進学振り分け制度の方式と、決定した進学先が希望通りか、在籍する学部学科の満足度、カリキュラム満足度、カリキュラム消化度の間に強い関連があることをみてきた。さらに、これらの項目の間には強い相関関係がある。このため、カリキュラムが消化できないため、カリキュラムに対する満足度が低く、さらに学部学科の満足度や決定した進学先の満足度が低くなり、ひいては、進学振分け制度に対して、現行方式ではない方式を支持するという関係があると考えられる。

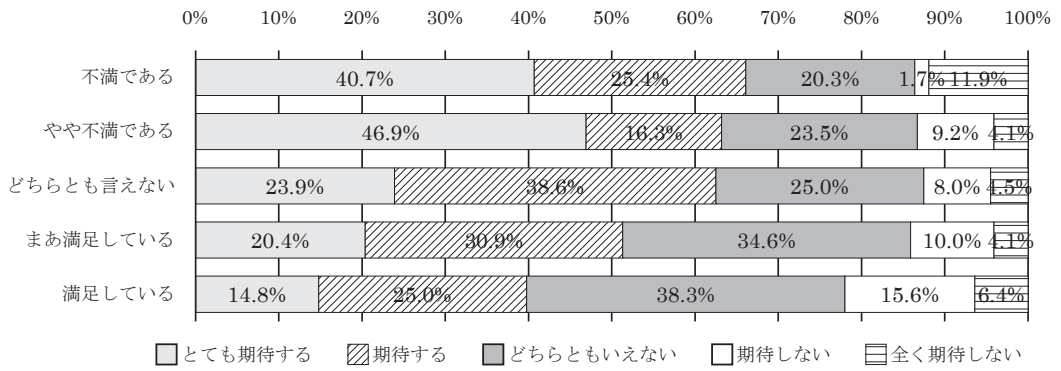


図29 「現在のカリキュラム満足度」と「進学振分け制度の改善への期待」

また、進学振分け制度の改善についても、図29のように、現在のカリキュラムの満足度と強い相関がみられ、「満足している」と答えた者では、「とても期待する」と答えた者の割合は14.8％にすぎないが、「不満である」と答えた者では、「とても期待する」と答えた者の割合は40.7％となっている。このように、満足度が低い者ほど、進学振分け制度の改善に期待している。学部学科は希望通りか、あるいは所属する学部学科の満足度についても同じような相関がみられる。

先の問いと同じく、こうした改善への期待の大きな要因は、カリキュラム消化度にあると考えられる。図30のように、カリキュラムの消化度と進学振分け制度の改善への期待度には強い相関がみられ、カリキュラムが消化できない者ほど、進学振分け制度の改善に期待を寄せている。「できる」と答えた者では、「とても期待する」と答えた者の割合は15.5％であるが、消化度が下がるに従い、期待度は上がり、「できない」と答えた者では42.5％と期待する割合が高くなっている。

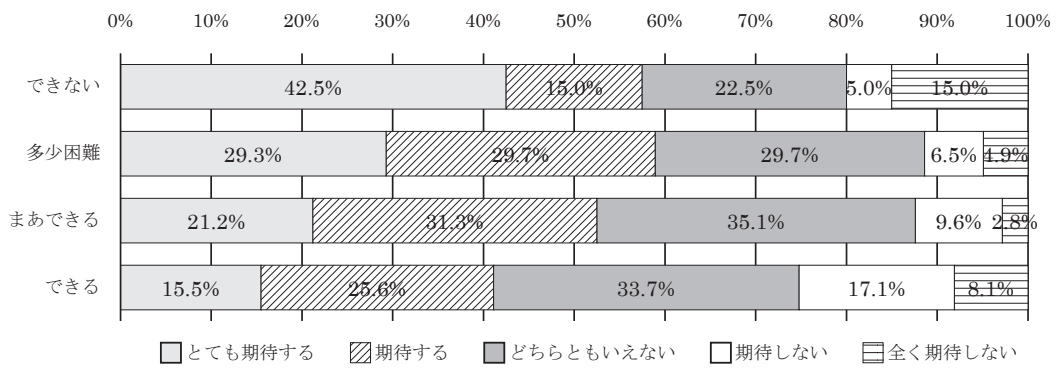


図30 「カリキュラム消化度」と「進学振分け制度の改善への期待」

さらに、進学振分け制度の方式への支持と改善への期待の間にも強い関連が見られる。図31のように、「特に考えていることはない」者や「現行のままでよい」とする者の割合は、「とても期待する」と「期待する」を合わせても33.8％にすぎないが、「入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がいい」と答えた者では、合わせて85.0％、「点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい」では、合わせて86.5％と大多数が進学振分け制度の改善に期待している。

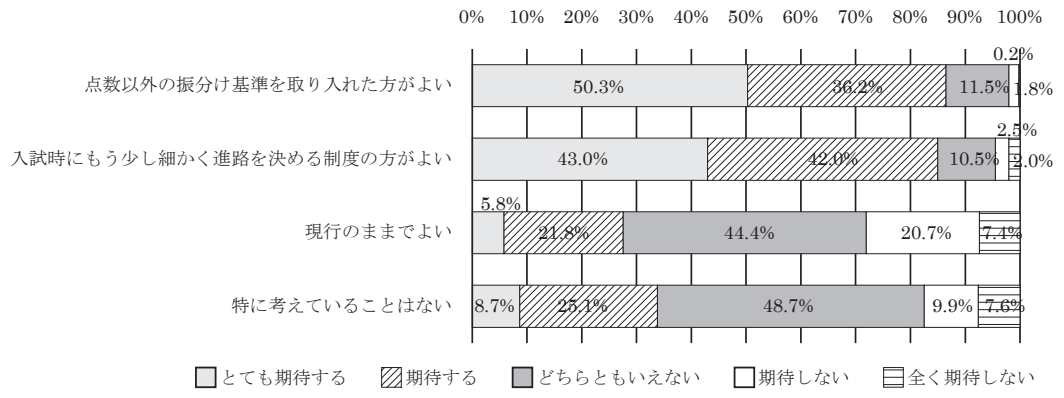


図31 「進学振り分け制度の方法」と「進学振分け制度の改善への期待」

このように、希望通りの進学先であったか、在籍している学部学科に満足しているか、現在のカリキュラムに満足しているかは相互に強く関連しており、その要因のひとつはカリキュラムの消化度にあると考えられる。そして、これらの要因が相互に関連して、進学振分け制度のあり方や改善への期待に強く影響を与えていると見られる。

学生の評価や満足度は相互に強く関連していることがこの進学振分け制度の例で示された。他の項目でも同じような強い関連が見られる。こうした点をさらに解明していくことが、学生生活実態調査を有効に活用し、東京大学の教育の改善にむすびつけるために必要であろう。

駒場Ⅰキャンパス・21 Komaba Center for Educational Excellence（理想の教育棟）

資料１

第60回（2010年）学生生活実態調査票・単純集計表

Ⅰ．基本事項について伺います。

1.性別	男	1122 人	77.8 %	女	320 人	22.2 %
2.科類・学部	文Ⅰ	87 人	6.0 %	文Ⅱ	78 人	5.4 %
【１・２年生の方】	文Ⅲ	110	7.6	理Ⅰ	277	19.1
	理Ⅱ	131	9.0	理Ⅲ	27	1.9
【３年生以上の方】	法学部	115 人	7.9 %	経済学部	80 人	5.5 %
	文学部	77	5.3	教育学部	26	1.8
	教養（文科系）	27	1.9	教養（理科系）	8	0.6
	理学部	61	4.2	工学部	193	13.3
	農学部	77	5.3	薬学部	24	1.7
	医学部	56	3.9			
				合　計	1454	100.0
3.あなたの出身校は、どれに該当しますか。	国立（大学附属）	138 人	9.5 %	公立中等教育学校	211 人	14.5 %
	その他の公立	327	22.5	中高一貫型の私立	721	49.5
	その他の私立	33	2.3	高等学校卒業程度	7	0.5
	外国学校	14	1.0	認定試験		
	その他	5	0.3			
				合　計	1456	100.1
4.現役・浪人等	現役	986 人	67.9 %	１浪	411 人	28.3 %
	２浪以上	38	2.6	学士入学	0	0.0
	その他	17	1.2			
				合　計	1452	100.0
5.現在の学年	１年	349 人	24.0 %	２年	360 人	24.8 %
	３年	326	22.4	４年	383	26.4
	５年（医学・獣医・薬学）	18	1.2	６年（医学・獣医）	17	1.2
				合　計	1453	100.0
6.入学年度(注)	1987年	1 人	0.1 %	1988年	1 人	0.1 %
	1989年	3	0.2	1990年	2	0.1
	1992年	1	0.1	2002年	2	0.1
	2004年	5	0.3	2005年	38	2.6
	2006年	93	6.4	2007年	302	20.8
	2008年	313	21.5	2009年	340	23.4
	2010年	350	24.1	2011年	1	0.1
				合　計	1452	100.0
7.進学年度	2005年	2 人	0.3 %	2006年	1 人	0.1 %
（後期課程の方のみ）	2007年	33	4.6	2008年	80	11.1
	2009年	297	41.4	2010年	299	41.6
	2011年	6	0.8			
				合　計	718	100.0

（注）1992年以前入学は、学生の記入間違いの可能性が高い。

Ⅱ．入学・進学・学業について

8.東大を受験する際に東大に入学することをどの程度希望していましたか。	浪人しても東大に入りたいと思っていた	841 人	58.2 %
	東大がだめなら他大学でもよいと思っていた	584	40.4
	他大学がだめなら東大でもよいと思っていた	19	1.3
	合　計	1444	99.9
9.東大入学の動機は、どれにあたりますか。（主なものを３つまで選んでください。）	社会的評価が高いから	759 人	19.4 %
	スタッフ・設備が優れているから	379	9.7
	将来の就職を考えて	406	10.4
	難関を突破したかったから	399	10.2
	私大に比べて授業料が安いから	541	13.8
	東大の伝統や雰囲気に憧れて	318	8.1
	入学後に学部の選択が可能だから	633	16.2
	親・兄弟・姉妹の勧めで	81	2.1
	高校の先生や友人などの勧めで	267	6.8
	その他	128	3.3
	合　計	3911	100.0
10.入学するときに進学する学部あるいは学科等を決めていましたか。	学科等まで決めていた	349 人	24.2 %
	学部のみ決めていた	470	32.5
	学部・学科等は決めていなかった	625	43.3
	合　計	1444	100.0
進学内定者及び後期課程在学生に伺います。 11.進学の決定（内定）は、希望通りでしたか。	希望通り決定（内定）した	862 人	79.5 %
	ほぼ希望通り決定（内定）した	161	14.9
	希望通りでなかった	61	5.6
	合　計	1084	100.0
12.あなたは、在学中に留学したことがありますか。それはいつですか。	留学したことはない	1367 人	94.0 %
	短期留学（１年未満）をした	58	4.0
	長期留学（１年以上）をした	15	1.0
短期留学した時期	東大入学以前	26 人	40.6 %
	１年	6	9.4
	２年	14	21.9
	３年	11	17.2
	４年	5	7.8
	５年	2	3.1
	６年	0	0.0
	合　計	64	100.0
長期留学した時期	東大入学以前	11 人	73.3 %
	１年	1	6.7
	２年	0	0.0
	３年	2	13.0
	４年	1	6.7
	５年	0	0.0
	６年	0	0.0
	合　計	15	100.0
13.現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか。	満足している	491 人	34.1 %
	まあ満足している	614	42.6
	どちらとも言えない	176	12.2
	やや不満である	99	6.9
	不満である	61	4.2
	合　計	1441	100.0
14.進学振分け制度についてどのように考えていますか。	特に考えていることはない	345 人	24.0 %
	現行のままでよい	575	39.9
	入試時にもう少し細かく進路を決める制度の方がよい	206	14.3
	点数以外の振り分け基準を取り入れた方がよい	314	21.8
	合　計	1440	100.0
15.現在のカリキュラムに満足していますか。	満足している	167 人	11.6 %
	まあ満足している	650	45.1
	どちらとも言えない	319	22.1
	やや不満である	227	15.7
	不満である	79	5.5
	合　計	1442	100.0

16.現在のカリキュラムは消化できますか。	できる	460 人	31.9 %
	まあできる	676	46.9
	多少困難	266	18.4
	できない	40	2.8
	合　計	1442	100.0
17.教養学部前期課程の授業に満足していますか。	満足している	147 人	10.2 %
	まあ満足している	549	38.0
	どちらとも言えない	342	23.7
	やや不満である	286	19.8
	不満である	121	8.4
	合　計	1445	100.0
18.あなたは、平日の夜、遅くまでキャンパス内にいることがありますか。 次の中から、最もあてはまるものを選んでください。	夜９時過ぎまでキャンパスにいることはない。	550 人	38.0 %
	夜９時くらいまでならキャンパスにいることはある。	358	24.7
	夜10時くらいまでならキャンパスにいることはある。	282	19.5
	夜11時くらいまでならキャンパスにいることはある。	102	7.0
	深夜12時過ぎまでキャンパスにいることがある。	157	10.8
	合　計	1449	100.0
問18で「キャンパスにいることはある」と答えた方に伺います 19.この半年で夜９時過ぎまでキャンパスにいることが、何回くらいありましたか。	半年で１、２回くらい。	108 人	12.1 %
	月に１、２回くらい。	232	26.1
	週に１、２回くらい。	295	33.1
	週に３、４回くらい。	189	21.2
	ほぼ毎日。	66	7.4
	合　計	890	100.0
20.あなたは、土曜・日曜・祝日にキャンパス内にいることはありますか。この冬学期が始まってから昼間も含めて、最もあてはまるものを１つ選んでください。	冬学期が始まって、キャンパス内にいたことはない。	334 人	23.3 %
	冬学期が始まってから、土・日・祝日にキャンパス内にいたことがある。	1099	76.7
	合　計	1433	100.0

	度数	最小	最大	平均	標準偏差
土曜・日曜・祝日にキャンパス内にいた回数	1015	1 回	60 回	8.52 回	6.63

21.学部卒業後、どのような進路を予定していますか。	大学院修士課程に進学する	619 人	42.6 %
	大学院博士課程に進学する	69	4.7
	専門職学位課程に進学する	63	4.3
	学士入学をする	8	0.6
	就職する	456	31.4
	進学も就職もしない	3	0.2
	起業する	3	0.2
	まだ決めていない	210	14.5
	その他	22	1.5
	合　計	1453	100.0
問21で「大学院に進学する」と答えた方に伺います。 22.その理由は、次のうちどれにあたりますか。 （主なものを２つまで選んでください。）	より高度の知識・技術を身につけるため	581 人	43.6 %
	大学で教育・研究職に就くため	139	10.4
	大学外で研究職に就くため	86	6.4
	必要な資格を得るため	113	8.5
	良い就職先を得るため	180	13.5
	まだ社会に出たくないから	110	8.2
	就職先が決まらないから	13	1.0
	周囲に勧められたから	17	1.3
	大学院修了ということの社会的評価が高い	52	3.9
	学部での進路指導に従って	26	1.9
	その他	17	1.3
	合　計	1334	100.0

Ⅲ．就職について

23.どのような職業に就きたいと思いますか。（主なものを３つまで選んでください）	部門		
	公務員	774 人	33.7 %
	非営利団体	137	6.0
	民間企業	1077	46.9
	自営業	101	4.4
	起　業	124	5.4
	その他	85	3.7
	合　計	2298	100.0
	職種		%
	大学・公的機関の教育・研究職	458 人	17.4
	企業等の研究職	479	18.2
	技術職	350	13.3
	事務職	238	9.0
	販売職	41	1.6
	教育職（大学を除く）	100	3.8
	行政職	225	8.5
	管理職	219	8.3
	マスコミ（新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等）	119	4.5
	専門職（医師、法曹、公認会計士等）	351	13.3
	その他	58	2.2
	合　計	2638	100.1
24.その職業に就きたいと考えるのは、どのような理由からですか。（主なものを３つまで選んでください）	人を助けたり社会に奉仕できる	647 人	18.9 %
	安定した生活が保障されている	438	12.8
	十分な収入が期待できる	435	12.7
	自分の特技・能力や専門知識が活かせる	884	25.8
	国際的な仕事ができる	197	5.8
	社会的な地位・名声が得られる	142	4.1
	組織にしばられず、自由な活動ができる	173	5.1
	人や組織を動かすことができる	162	4.7
	独創性や創造性を発揮できる	286	8.4
	その他	59	1.7
	合　計	3423	100.0

Ⅳ．不安・悩みについて

25.現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度悩んだり不安を感じたりしていますか。
（それぞれの項目について、４段階の中から該当するものを選んでください。）

1.勉学（成績・単位など）	良く悩む	398 人	27.4 %
	ときに悩む	595	41.0
	あまり悩まない	341	23.5
	全く悩まない	118	8.1
	合　計	1452	100.0
2.学部進学や大学院進学	良く悩む	388 人	26.7 %
	ときに悩む	505	34.8
	あまり悩まない	370	25.5
	全く悩まない	188	13.0
	合　計	1451	100.0
3.就職	良く悩む	504 人	34.7 %
	ときに悩む	535	36.8
	あまり悩まない	292	20.1
	全く悩まない	121	8.3
	合　計	1452	100.0
4.将来の進路や生き方	良く悩む	673 人	46.3 %
	ときに悩む	531	36.5
	あまり悩まない	184	12.7
	全く悩まない	65	4.5
	合　計	1453	100.0
5.友人との対人関係	良く悩む	188 人	12.9 %
	ときに悩む	409	28.1
	あまり悩まない	601	41.3
	全く悩まない	256	17.6
	合　計	1454	99.9
6.教職員との対人関係	良く悩む	36 人	2.5 %
	ときに悩む	113	7.8
	あまり悩まない	546	37.7
	全く悩まない	755	52.1
	合　計	1450	100.0
7.性・異性・恋愛・結婚	良く悩む	297 人	20.4 %
	ときに悩む	510	35.1
	あまり悩まない	460	31.7
	全く悩まない	186	12.8
	合　計	1453	100.0
8.経済的なことや経済的自立	良く悩む	324 人	22.3 %
	ときに悩む	605	41.6
	あまり悩まない	385	26.5
	全く悩まない	139	9.6
	合　計	1453	100.0
9.自分の性格	良く悩む	315 人	21.7 %
	ときに悩む	476	32.7
	あまり悩まない	456	31.4
	全く悩まない	207	14.2
	合　計	1454	100.0
10.自分の体調や健康	良く悩む	143 人	9.8 %
	ときに悩む	359	24.7
	あまり悩まない	608	41.8
	全く悩まない	344	23.7
	合　計	1454	100.0
11.人生の意義・目標	良く悩む	355 人	24.8 %
	ときに悩む	523	36.6
	あまり悩まない	369	25.8
	全く悩まない	182	12.7
	合　計	1429	99.9

26.あなたは、不安や悩みを感じたとき、だれと相談したり、話合ったりしますか。
（それぞれの項目について、４段階の中から該当するものを選んでください。）

1.父・母	よく相談する	269 人	18.5 %
	ときどき相談する	357	24.6
	たまに相談する	513	35.4
	全く相談しない	312	21.5
	合　計	1451	100.0
2.兄弟・姉妹	よく相談する	59 人	4.1 %
	ときどき相談する	114	8.0
	たまに相談する	273	19.1
	全く相談しない	985	68.8
	合　計	1431	100.0
3.なんでも相談コーナー・学生相談所等	よく相談する	16 人	1.1 %
	ときどき相談する	20	1.4
	たまに相談する	81	5.6
	全く相談しない	1331	91.9
	合　計	1448	100.0
4.大学の教職員	よく相談する	8 人	0.6 %
	ときどき相談する	31	2.1
	たまに相談する	195	13.5
	全く相談しない	1214	83.8
	合　計	1448	100.0
5.大学内の同じ学科や研究室の友人	よく相談する	149 人	10.3 %
	ときどき相談する	363	25.0
	たまに相談する	517	35.7
	全く相談しない	421	29.0
	合　計	1450	100.0
6.大学内のサークルや団体の友人	よく相談する	197 人	13.6 %
	ときどき相談する	365	25.2
	たまに相談する	429	29.7
	全く相談しない	455	31.5
	合　計	1446	100.0
7.大学外の友人	よく相談する	152 人	10.5 %
	ときどき相談する	350	24.1
	たまに相談する	492	33.9
	全く相談しない	458	31.5
	合　計	1452	100.0
8.先輩	よく相談する	79 人	5.5 %
	ときどき相談する	276	19.0
	たまに相談する	462	31.9
	全く相談しない	632	43.6
	合　計	1449	100.0
9.恋人	よく相談する	156 人	11.1 %
	ときどき相談する	181	12.9
	たまに相談する	201	14.3
	全く相談しない	869	61.8
	合　計	1407	100.0

27.あなたは最近６ヶ月の間に、次の項目について、体験したり悩んだりしましたか。
（それぞれの項目について、４段階の中から該当するものを選んでください。）

1.強い不安に襲われた	よく体験した	221 人	15.4 %
	時に体験した	486	33.8
	あまり体験しなかった	353	24.6
	全く体験しなかった	376	26.2
	合　計	1436	100.0
2.自分でもバカらしいと思う考えが浮かんだり、自分のすることを何度も確かめてみなければならかった	よく体験した	127 人	8.8 %
	時に体験した	306	21.3
	あまり体験しなかった	420	29.2
	全く体験しなかった	583	40.6
	合　計	1436	100.0

3.人と話していてとても緊張したり、不安を感じた	よく体験した	116 人	8.1 %
	時に体験した	391	27.2
	あまり体験しなかった	479	33.4
	全く体験しなかった	450	31.3
	合　計	1436	100.0
4.他の人が自分に敵意を持っている、人から監視されていると感じた	よく体験した	51 人	3.6 %
	時に体験した	151	10.5
	あまり体験しなかった	369	25.7
	全く体験しなかった	865	60.2
	合　計	1436	100.0
5.バス・地下鉄・電車などの乗り物に乗るのがこわかった	よく体験した	16 人	1.1 %
	時に体験した	35	2.4
	あまり体験しなかった	137	9.5
	全く体験しなかった	1249	86.9
	合　計	1437	99.9
6.気分が落ち込んだり、何にも興味が持てなくなった	よく体験した	138 人	9.6 %
	時に体験した	399	27.8
	あまり体験しなかった	378	26.3
	全く体験しなかった	521	36.3
	合　計	1436	100.0
7.人と一緒にいてもさびしい感じがした	よく体験した	88 人	6.1 %
	時に体験した	326	22.7
	あまり体験しなかった	389	27.1
	全く体験しなかった	633	44.1
	合　計	1436	100.0
8.体の病気でもないのに、息切れ・めまい・動悸などがした	よく体験した	30 人	2.1 %
	時に体験した	80	5.6
	あまり体験しなかった	235	16.4
	全く体験しなかった	1091	76.0
	合　計	1436	100.0
9.イライラしたり、物を壊したり人を傷つけたりしたい衝動にかられた	よく体験した	81 人	5.6 %
	時に体験した	258	18.0
	あまり体験しなかった	361	25.2
	全く体験しなかった	735	51.2
	合　計	1435	100.0
10.やる気がなくなり、無気力状態（アパシー）になった	よく体験した	160 人	11.1 %
	時に体験した	375	26.1
	あまり体験しなかった	377	26.3
	全く体験しなかった	524	36.5
	合　計	1436	100.0
11.ついつい過食してしまう傾向があった	よく体験した	112 人	7.8 %
	時に体験した	274	19.1
	あまり体験しなかった	338	23.5
	全く体験しなかった	712	49.6
	合　計	1436	100.0
12.食欲がなくなり、食べ物を口にしたくないと思った	よく体験した	29 人	2.0 %
	時に体験した	133	9.3
	あまり体験しなかった	268	18.7
	全く体験しなかった	1003	70.0
	合　計	1433	100.0

28.あなたの悩みや不安を解消するために、大学にどのような対応があればよいと思いますか。
（それぞれの項目について、４段階の中から該当するものを選んでください。）

1.学生が教員や職員と接触する機会を増やす	全くそう思う	99 人	6.9 %
	まあそう思う	451	31.5
	あまりそう思わない	519	36.2
	全くそう思わない	363	25.3
	合　計	1432	100.0
2.教務課や学生課などの事務機能を充実させる	全くそう思う	112 人	7.8 %
	まあそう思う	390	27.3
	あまりそう思わない	565	39.5
	全くそう思わない	364	25.4
	合　計	1431	100.0

3.クラス担任制度やチューター制度を充実させる	全くそう思う	105 人	7.3 %
	まあそう思う	314	22.0
	あまりそう思わない	570	39.9
	全くそう思わない	441	30.8
	合　計	1430	100.0
4.学習方法や学習内容について相談機能を充実させる	全くそう思う	139 人	9.7 %
	まあそう思う	513	35.8
	あまりそう思わない	477	33.3
	全くそう思わない	303	21.2
	合　計	1432	100.0
5.学部進学や大学院進学について相談機能を充実させる	全くそう思う	259 人	18.1 %
	まあそう思う	603	42.1
	あまりそう思わない	326	22.8
	全くそう思わない	243	17.0
	合　計	1431	100.0
6.就職指導や進路相談の機能を充実させる	全くそう思う	310 人	21.7 %
	まあそう思う	617	43.1
	あまりそう思わない	310	21.7
	全くそう思わない	194	13.6
	合　計	1431	100.1
7.健康相談や保健センターの機能を充実させる	全くそう思う	198 人	13.9 %
	まあそう思う	506	35.4
	あまりそう思わない	480	33.6
	全くそう思わない	244	17.1
	合　計	1428	100.0
8.個人的な悩みの学生相談やカウンセリング機能を充実させる	全くそう思う	124 人	8.7 %
	まあそう思う	478	33.4
	あまりそう思わない	543	38.0
	全くそう思わない	284	19.9
	合　計	1429	100.0
9.奨学金の充実や、授業料免除など、経済的支援を強化する	全くそう思う	464 人	32.4 %
	まあそう思う	499	34.9
	あまりそう思わない	303	21.2
	全くそう思わない	165	11.5
	合　計	1431	100.0
10.学生同士が支え合うネットワークづくりを強化する	全くそう思う	223 人	15.6 %
	まあそう思う	510	35.8
	あまりそう思わない	474	33.2
	全くそう思わない	219	15.4
	合　計	1426	100.0
29.過去１年間に体の不調はありましたか？	よくあった	96 人	6.7 %
	ときにあった	522	36.4
	あまりなかった	456	31.8
	全くなかった	362	25.2
	合　計	1436	100.0
問29で、「よくあった」「ときにあった」「あまりなかった」と答えた方のみお答えください。 30.過去１年間に体の不調があったときに、どのように対処しましたか？あてはまるものをすべて選んでください。	家族に相談	532 人	28.3 %
	大学内の同じ学科やサークルの友人・先輩に相談	176	9.4
	大学外の友人・先輩に相談	50	2.7
	大学の教職員に相談	7	0.4
	保健センター（本郷・駒場・柏）の診療部を受診	321	17.1
	保健センター（本郷・駒場・柏）の健康管理室に相談	67	3.6
	東大病院を受診	32	1.7
	地域のクリニックや病院を受診	585	31.1
	その他	110	5.9
	合　計	1880	100.2

31.過去１年間に、大学が行っている保健サービスを利用しましたか？利用したものすべてを選んでください。	大学のホームページや掲示板に掲載された健康情報や通知にアクセス	119 人	8.6 %
	保健センターのホームページや掲示板に掲載された健康情報や通知にアクセス	164	11.9
	保健センターの定期健康診断の受診	892	64.5
	保健センターの健康診断書や健康診断証明書の発行	159	11.5
	その他	49	3.5
	合　計	1383	100.0
32.大学が行っている保健サービスに満足していますか？	満足	557 人	39.0 %
	どちらとも言えない	737	51.6
	不満	134	9.4
	合　計	1428	100.0

Ⅴ．大学への要望

33.大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。
（それぞれの項目について、５段階の中から該当するものを選んでください。）

1.カリキュラムの改革	とても期待する	357 人	24.8 %
	期待する	608	42.2
	どちらともいえない	360	25.0
	期待しない	83	5.8
	全く期待しない	33	2.3
	合　計	1441	100.0
2.実験室や実習室の充実	とても期待する	261 人	18.1 %
	期待する	494	34.2
	どちらともいえない	494	34.2
	期待しない	128	8.9
	全く期待しない	67	4.6
	合　計	1444	100.0
3.進学振分け制度の改善	とても期待する	313 人	21.7 %
	期待する	413	28.6
	どちらともいえない	480	33.3
	期待しない	161	11.2
	全く期待しない	75	5.2
	合　計	1442	100.0
4.授業の方法の工夫・改善	とても期待する	466 人	32.3 %
	期待する	627	43.5
	どちらともいえない	251	17.4
	期待しない	68	4.7
	全く期待しない	31	2.1
	合　計	1443	100.0
5.単位認定や学年試験を厳しく	とても期待する	54 人	3.7 %
	期待する	124	8.6
	どちらともいえない	410	28.4
	期待しない	406	28.1
	全く期待しない	449	31.1
	合　計	1443	100.0
6.カウンセリング・相談体制の充実	とても期待する	80 人	5.5 %
	期待する	360	24.9
	どちらともいえない	565	39.1
	期待しない	296	20.5
	全く期待しない	143	9.9
	合　計	1444	99.9
7.奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	とても期待する	470 人	32.6 %
	期待する	498	34.5
	どちらともいえない	310	21.5
	期待しない	101	7.0
	全く期待しない	64	4.4
	合　計	1443	100.0
8.社会への貢献	とても期待する	279 人	19.3 %
	期待する	583	40.4
	どちらともいえない	415	28.8
	期待しない	94	6.5
	全く期待しない	72	5.0
	合　計	1443	100.0
9.海外留学の支援	とても期待する	478 人	33.1 %
	期待する	474	32.8
	どちらともいえない	333	23.0
	期待しない	95	6.6
	全く期待しない	65	4.5
	合　計	1445	100.0

10.施設設備の充実	とても期待する	527 人	36.5 %
	期待する	617	42.8
	どちらともいえない	211	14.6
	期待しない	49	3.4
	全く期待しない	38	2.6
	合　計	1442	100.0
11.教育スタッフの充実	とても期待する	313 人	21.7 %
	期待する	613	42.5
	どちらともいえない	388	26.9
	期待しない	85	5.9
	全く期待しない	45	3.1
	合　計	1444	100.0
12.少人数教育の実施	とても期待する	276 人	19.1 %
	期待する	428	29.6
	どちらともいえない	466	32.3
	期待しない	193	13.4
	全く期待しない	81	5.6
	合　計	1444	100.0
13.単位認定や学年試験を緩やかに	とても期待する	275 人	19.0 %
	期待する	279	19.3
	どちらともいえない	557	38.6
	期待しない	230	15.9
	全く期待しない	103	7.1
	合　計	1444	100.0
14.図書館の充実	とても期待する	565 人	39.1 %
	期待する	574	39.8
	どちらともいえない	229	15.9
	期待しない	43	3.0
	全く期待しない	33	2.3
	合　計	1444	100.1
15.学生自治の尊重	とても期待する	109 人	7.6 %
	期待する	286	19.8
	どちらともいえない	686	47.6
	期待しない	227	15.8
	全く期待しない	133	9.2
	合　計	1441	100.0
16.就職対策の充実	とても期待する	418 人	28.9 %
	期待する	555	38.4
	どちらともいえない	318	22.0
	期待しない	87	6.0
	全く期待しない	67	4.6
	合　計	1445	99.9
17.国際化の推進	とても期待する	439 人	30.5 %
	期待する	503	34.9
	どちらともいえない	383	26.6
	期待しない	60	4.2
	全く期待しない	56	3.9
	合　計	1441	100.0

Ⅵ. 家庭の状況について

34.家庭の所在地はどこですか。	A.地区			
	東京都		391 人	27.0 %
	関東地方（東京以外）		456	31.5
	北海道地方		22	1.5
	東北地方		42	2.9
	中部地方		178	12.3
	近畿地方		160	11.0
	中国地方		54	3.7
	四国地方		34	2.3
	九州・沖縄地方		111	7.7
	日本国外		1	0.1
	合　計		1449	100.0
	B.都市規模			
	大都市＝人口100万人以上		627 人	43.8 %
	中都市＝人口10万人以上		596	41.6
	小都市＝人口10万人未満		168	11.7
	郡部		40	2.8
	合　計		1431	99.9
35.家族構成について、あてはまる方をすべて選んで下さい。	A.			
	祖父		155 人	3.5 %
	祖母		278	6.2
	父		1349	30.1
	母		1428	31.8
	在学中の兄弟姉妹		717	16.0
	それ以外の兄弟姉妹		529	11.8
	親類		19	0.4
	その他		9	0.2
	合　計		4484	100.0
	B.あなたは結婚していますか			
	未　婚		1436 人	99.2 %
	既　婚		11	0.8
	合　計		1447	100.0
36.家計支持者はだれですか。（複数回答可）	父		1345 人	66.7 %
	母		604	30.0
	本人		28	1.4
	兄弟姉妹		12	0.6
	祖父母		22	1.1
	配偶者		1	0.0
	その他		3	0.1
	合　計		2015	99.9
問36で、「父、母」両方を選択された方は、設問37～39についても「父」「母」それぞれについて回答ください。 37.家計支持者（父、母）の職業はどれにあたりますか。	父	専門的・技術的職業	326 人	24.2 %
		教育的職業	177	13.1
		管理的職業	570	42.3
		事務	106	7.9
		農・林・漁業	7	0.5
		生産工程・採掘作業	47	3.5
		運輸・通信・保安・サービス	64	4.7
		無職	24	1.8
		非正規	13	1.0
		その他	15	1.1
		合　計	1349	100.1

	母	専門的・技術的職業	115 人	16.7 %
		教育的職業	131	19.0
		管理的職業	22	3.2
		事務	105	15.2
		農・林・漁業	4	0.6
		生産工程・採掘作業	6	0.9
		運輸・通信・保安・サービス	29	4.2
		無職	51	7.4
		非正規	218	31.6
		その他	9	1.3
		合　計	690	100.1
38.家計支持者（父、母）の雇用形態は大きく分けてどれにあたりますか。	父	自分一人（だれにも雇用されてない、まただれも雇用していない）	77 人	5.9 %
		民間企業に勤務（民間企業・団体の職員等）	785	60.2
		官公庁に勤務（国・自治体、公共企業体の職員等）	301	23.1
		経営者・役員または人を雇用している	142	10.9
		合　計	1305	100.0
	母	自分一人（だれにも雇用されてない、まただれも雇用していない）	58 人	9.5 %
		民間企業に勤務（民間企業・団体の職員等）	368	60.0
		官公庁に勤務（国・自治体、公共企業体の職員等）	154	25.1
		経営者・役員または人を雇用している	33	5.4
		合　計	613	100.0
39.家計支持者（父、母）の勤務先（設問37の職業分類）の規模はどれにあたりますか。 A．設問35の職業が「教育的職業」以外の方は次に中から選んでください。	父	従業員が1,000人以上の企業及び官公庁	569 人	49.8 %
		従業員が100人以上1,000人未満の企業及び官公庁	260	22.7
		従業員が10人以上100人未満の企業及び官公庁	173	15.1
		従業員が10人未満の企業及び官公庁	141	12.3
		合　計	1143	100.0
	母	従業員が1,000人以上の企業及び官公庁	96 人	19.6 %
		従業員が100人以上1,000人未満の企業及び官公庁	106	21.6
		従業員が10人以上100人未満の企業及び官公庁	188	38.3
		従業員が10人未満の企業及び官公庁	101	20.6
		合　計	491	100.0

40.あなたの生活を支えている家族の世帯年収（税込）はどれくらいですか。
（ボーナスも含めてください。）

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年収（単位十万円）	789 人	0 十万円	2000十万円	116.7十万円	135.1
わからない	635 人				

Ⅶ. 生活費の状況について

（単位：千円）

		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
41.右の各欄に金額を記入してください。 （おおよそ平均１ヶ月の収支額を記入してください。） 食　費 自宅生は外食代(費)を記入する。 住居費 自宅外生のみ記入する。 勉学費 勉学に必要な書籍代、実習材料費、文具代、実習旅費等（授業料等の学校納付金を除く）。 教養・娯楽費 教養･娯楽のための書籍代、サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、校友費、スポーツ代、映画･演劇・音楽会の入場料等。 雑　費 理･美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、携帯電話代、インターネット代、医療費、水・光熱費等。 家庭からの仕送り・小遣い 親・兄弟・親類等からの仕送り。	衣料費	1380 人	0 千円	100 千円	6.8 千円	7.9
	食　費	1393	0	300	23.8	15.8
	住居費	814	0	300	62.8	35.5
	勉学費	1376	0	100	6.9	7.5
	教養・娯楽費	1382	0	200	14.3	13.6
	通学費	1370	0	160	6.1	8.2
	雑　費	1370	0	100	11.5	9.4
	預貯金	1287	0	3012	43.1	151.3
	支出額合計	1327	0	800	107.7	66.9
	家庭からの仕送り・小遣い	1362 人	0 千円	800 千円	64.2 千円	61.5
	奨学金	1215	0	180	15.1	30.8
	アルバイト・雑収入	1332	0	800	31.9	47.7
	ローン・クレジット・借入金	1169	0	210	0.9	9.8
	収入額合計	1342	0	800	104.0	71.8

42.授業料はどのように負担していますか。あてはまるものをすべて選んでください。	家庭からの仕送り	1272 人	81.0 %
	奨学金	116	7.4
	アルバイト・雑収入	49	3.1
	全額授業料免除	81	5.2
	半額授業料免除	26	1.7
	その他	26	1.7
	合　計	1570	100.1

Ⅷ. 通学・住居について

43.現在どこに住んでいますか。	東京23区	876 人	60.7 %
	東京（23区外）	177	12.3
	横浜市	101	7.0
	川崎市	49	3.4
	神奈川県（「横浜市・川崎市」を除く）	31	2.1
	さいたま・川口・蕨の各市	46	3.2
	埼玉県（「さいたま・川口・蕨の各市」を除く）	55	3.8
	千葉・船橋・市川・習志野・松戸の各市	38	2.6
	千葉県（「千葉・船橋・市川・習志野・松戸の各市」を除く）	49	3.4
	その他の県	22	1.5
	合　計	1444	100.0
44.居住形態はどれにあたりますか。	自宅	692 人	48.1 %
	自宅外	747	51.9
	合　計	1439	100.0

自宅外の方に伺います。 45.現在住んでいる住居の区分はどれにあたりますか。	分譲マンション	27 人	3.6 %
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	527	70.8
	アパート（バスなし）・下宿	44	5.9
	東大の寮	50	6.7
	その他の寮	87	11.7
	その他	9	1.2
	合　計	744	100.0
46.学寮・学生寄宿舎等を作れば、あなたは入居しますか。	する	199 人	13.9 %
	しない	471	32.8
	入居費による	546	38.1
	わからない	218	15.2
	合　計	1434	100.0
47.あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。（移動時間の多いものを１つ選んでください。）	電車	1067 人	71.7 %
	バス	16	1.1
	自家用車	9	0.6
	バイク	7	0.5
	自転車	308	20.7
	徒歩のみ	81	5.4
	その他	1	0.1
	合　計	1489	100.1

48.片道の所要時間はどれくらいですか。（分単位で記入してください。）		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
	所要時間	1440 人	1 分	300 分	46.6 分	29.7

Ⅸ．奨学金について

49.日本学生支援機構または他の団体から定期的に奨学金を受けていますか。	受けている	328 人	22.7 %
	受けたいが受けられなかった	195	13.5
	受けたくない	76	5.3
	受ける必要がない	845	58.5
	合　計	1444	100.0
問49で「受けたいがうけられなかった」または「受けたくない」と答えた方に伺います。 50.その理由はどれにあたりますか。	出願したが採用されなかった	26 人	9.0 %
	事務手続きが煩雑だから	36	12.5
	掲示等に気がつかなかった	18	6.3
	資格がない	79	27.4
	書類を期限までに整えられなかった	18	6.3
	貸与なので申請しなかった	105	36.5
	その他	6	2.1
	合　計	288	100.1
問50で「書類が期限までに整えられなかった」または「貸与なので申請しなかった」またはその他と答えた方に伺います。 51.これから受けたいと思いますか。	受けたい	54 人	46.2 %
	受けたくない	63	53.8
	合　計	117	100.0
奨学金を受けている方に伺います。問52～53までお答えください。 52.どこの奨学金を受けていますか。あてはまるものすべてを選んでください。	日本学生支援機構第一種奨学金（無利息奨学金）	182 人	46.7 %
	日本学生支援機構第二種奨学金（利息付奨学金）	125	32.1
	公益法人等・地方公共団体等の奨学金	79	20.3
	大学独自の奨学金（学内奨学金）	4	1.0
	合　計	390	100.1
53.奨学金はどんな面で役に立っていますか。（主なものを２つまで選んでください）	家庭の経済的負担が軽減される	248 人	42.3 %
	多少ともゆとりのある生活ができる	107	18.3
	アルバイトが軽減される	67	11.4
	奨学金があるので生活が成り立っている	112	19.1
	定期的な収入になるので助かる	45	7.7
	その他	7	1.2
	合　計	586	100.0

X．アルバイトについて

54.過去一年間にアルバイトをしましたか。	継続的（1ヶ月以上）アルバイトをした	784 人	53.8 %
	臨時（1ヶ月未満）アルバイトをした	161	11.1
	継続的＋臨時的アルバイトをした	222	15.2
	しなかった	289	19.8
	合　計	1456	99.9
アルバイトをした方に伺います。 55.そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。 （主なものを2つまで選んでください。）	家庭教師	402 人	23.5 %
	塾講師	476	27.8
	試験監督・採点	201	11.7
	特殊技能（翻訳、通訳、プログラミング等）を要すること	44	2.6
	一般事務	117	6.8
	販売・セールス・サービス業	228	13.3
	単純労働	133	7.8
	コンピュータへの入力オペレータ	18	1.1
	その他	92	5.4
	合　計	1711	100.0

56.アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。 （往復時間を含め、アルバイトした期間について一週間当たりの平均時間を記入してください。）		度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
	時　間（単位：時間／月）	1151	0時間	84時間	11.4時間	10.7
	収入額（単位：千円／月）	1151	0千円	700千円	43.1千円	43.5
	（アルバイトした期間について1ヶ月当たりの平均金額を単位「千円」で記入してください。）					

57.アルバイトをした目的はどれにあたりましたか。 （主なものを1つ選んでください。）	生活費を稼ぐため	454 人	37.8 %
	学費を稼ぐため	26	2.2
	学生生活を楽しむため	396	33.0
	社会経験のため	281	23.4
	その他	44	3.7
	合　計	1201	100.1
問54で「継続的アルバイトをした」または「継続的＋臨時アルバイトをした」と答えた方に伺います。 58.継続的アルバイトは勉学の妨げになりません（でした）か。	かなり妨げになる（なった）	79 人	8.0 %
	多少妨げになる（なった）	486	49.3
	妨げにならない（ならなかった）	421	42.7
	合　計	986	100.0
59.現在の暮らし向きについてどうお考えですか。	かなり楽な方	398 人	27.5 %
	やや楽な方	369	25.5
	普通	478	33.0
	やや苦しい方	146	10.1
	大変苦しい方	42	2.9
	わからない	15	1.0
	合　計	1448	100.0

学生生活実態調査は、本年（2011年）も引き続きおこなっています。

学生委員会学生生活調査室

平成23年11月現在

調査室長	山口　勧	（大学院人文社会系研究科・文学部）
副調査室長	柳川　範之	（大学院経済学研究科・経済学部）
室員	伊藤　洋一	（大学院法学政治学研究科・法学部）
〃	石川　ひろの	（大学院医学系研究科・医学部）
〃	大久保　達也	（大学院工学系研究科・工学部）
〃	塩谷　光彦	（大学院理学系研究科・理学部）
〃	吉田　薫	（大学院農学生命科学研究科・農学部）
〃	松岡　心平	（大学院総合文化研究科・教養学部）
〃	田中　智志	（大学院教育学研究科・教育学部）
〃	村田　茂穂	（大学院薬学系研究科・薬学部）
〃	倉光　修	（学生相談ネットワーク本部）
〃	小林　雅之	（大学総合教育研究センター）
〃	富田　靖博	（本部部長（教育・学生支援部））
〃	関根　弘	（本部課長（教育・学生支援部））

担当部署　本部学務課学生総務チーム（教育・学生支援部）

◆　表紙写真　◆

赤門（旧加賀屋敷御守殿門）

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1419　2011年12月12日
東京大学広報室
〒113-8654
東京都文京区本郷７丁目３番１号
東京大学本部広報課
TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
http://www.u-tokyo.ac.jp